

外国人児童生徒等への学校生活支援

ぐんまのぐんぐんガイド



群馬県のマスコット「ぐんまちゃん」

— 受入れ編・指導編 —

群馬県総合教育センター

はじめに

社会や経済のグローバル化が進む中、今後更なる在留外国人の増加が見込まれています。

群馬県における外国人児童生徒等数は、令和2年5月1日現在、小学校2278人、中学校960人、計3238人です。そのうち、日本語指導を必要とする児童生徒は1340人で、平成26年度の772人から大きく増加しています。

これら外国人児童生徒等は、県内174校に在籍し、外国人児童生徒等が多い集住地域（伊勢崎市、太田市、大泉町）を中心に、47校に日本語指導特配教員が77名配置されています。集住地域では、30年以上前から日本語指導や学校生活への適応指導を計画的に行ってきた実績があり、多くの外国人児童生徒等が生き生きと学校生活を送っている姿が見られます。近年、在留外国人の多国籍化・多言語化が進み、より一層の指導の充実が求められています。日本語指導特配教員未配置の学校は127校で、これらの学校では日本語指導に関わるノウハウが不足し、指導に苦慮しています。特に外国人児童生徒等が少ない散在地域では、外国人児童生徒等への組織的な指導体制に課題があるのが現状です。

さらに、平成31年5月の調査では就学年齢の外国人の子供3659人中、就学不明者が412人いることが明らかとなっており、就学機会の確保も大きな課題となっています。

そこで県では、外国人児童生徒等が将来、地域の一員として活躍できるよう、高校教育を見据え、義務教育段階の教育を充実させることを目指し、令和元年度から「外国人の子供等の就学に関する検討会」を発足させました。令和2年度には、外国人児童生徒等への教育の充実に向け、「就学促進対策」「教材作成・指導者育成」「包括的支援」について、三つのワーキンググループを編成し、具体的な取組について検討し、方向性を示しています。

外国人児童生徒等との出会いが、多文化共生を目指した学校づくりへとつながる可能性をもっています。外国人児童生徒等が編入することが、学校の新たな扉を開けるきっかけとなるかもしれません。

「外国人児童生徒等への学校生活支援 ぐんまのぐんぐんガイドー受入れ編・指導編ー」は、県内のどの地域でも外国人児童生徒等の受入れ体制を整え、日本語指導や学習指導、学校生活適応指導が行えることを目指して作成いたしました。そして、このガイドブックの活用を通して、多文化共生を目指した学校づくりが多くの学校で行われるようになり、外国人児童生徒等はもちろん、全ての子供たちが夢や希望をもって学校生活を送ることができるようお願いしております。

ぐんぐんガイドの特徴と用語解説

<ぐんぐんガイドの特徴>

- ・本ガイドは、文部科学省総合教育政策局男女共同参画共生社会学習・安全課「外国人児童生徒受入れの手引き 改訂版」（2019年3月）を参考に作成しました。
- ・1～8の各項目で構成されています。1は「受入れに当たって」、外国人児童生徒等を受け入れる際に教職員に共通理解してほしい内容です。
- ・1～4は「受入れ編」、5～8は「指導編」です。途中、Q&AやPOINT、コラムなどを用いて、具体例や特に理解してほしい内容を解説しました。
- ・6は「日本語初期指導ぐんぐんプログラム」です。日本語を初めて学ぶ児童生徒のために行う「取り出し」指導プログラムです。学校の指導体制や児童生徒の実態に合わせてモジュール学習ができます。
- ・資料には、受入れや指導の際に連携することができる外部機関、活用できる教材や資料、Web ページを掲載しました。

<用語解説>

外国人児童生徒等	外国籍児童生徒と日本語指導を必要とする日本国籍児童生徒を指します。
文科省手引き	文部科学省総合教育政策局男女共同参画共生社会学習・安全課「外国人児童生徒受入れの手引き 改訂版」を指します。
在籍学級担任	見出し等では日本語指導担当教員と混同しないように「在籍学級担任」としてはいますが、文中では「担任」とします。
日本語指導担当教員	日本語指導を行うために特別に配置された教員を指します。日本語教室（下欄参照）の運営を行います。
外国人児童生徒等教育担当	日本語指導担当教員が配置されていない学校で、その学校の外国人児童生徒等への教育を推進する役割を担う教員を指します。既存の国際理解教育担当や教務主任などが兼ねることもあります。
日本語指導支援員・母語支援員等	いずれも担任や日本語指導担当教員とともに外国人児童生徒等の支援を行います。母語支援員等は母語による児童生徒のサポートや通知文書の翻訳等を行います。
母語	一番初めに覚え、最もよく理解できる言葉を指します。母国で使用していた言語を使わなくなり、日本語を習得して日本語が母語になる人もいます。
日本語教室	日本語指導のための特別な指導教室のことです。地域によっては、「日本語学級」「国際教室」というところもあります。

外国人児童生徒等への学校生活支援

1 受入れに当たって

- (1) 全ての子供たちのために……5
- (2) 子供の気持ちに寄り添って……5
- (3) 母語の重要性……6
- (4) 全教職員で取り組む体制づくり……7

2 受入れ準備

- (1) 受入れまでの流れ……9
- (2) 各担当の準備……11

5 日本語指導を始めるに当たって

- (1) 日本語指導のプログラム……19
- (2) 「特別の教育課程」編成の流れ……20

6 日本語初期指導 ぐんぐんプログラム

- (1) ぐんぐんプログラムについて……21
- (2) 指導案の活用方法……23
- (3) 単元一覧表・指導記録表……25
- (4) 指導計画表の活用例……27
- (5) 指導案……28
- (6) ひらがな指導例……43
- (7) 学級での指導例……45

資料

- ・ 就学関係……69
- ・ 生活支援・翻訳関係……70
- ・ 聞き取りシート……73
- ・ 指導計画表……74

ぐんまのぐんぐんガイド

3 受入れのための面接

- (1) 面接の流れ……………13
- (2) 聞き取りシート……………15

4 学級の準備

- (1) 在籍学級担任の心構え……………17
- (2) 在籍学級担任の準備……………18
- (3) 「取り出し」指導のための
教室環境づくり……………18

7 日本語指導 ・ 学習指導

- (1) 「特別の教育課程」による
日本語指導……………47
- (2) 指導計画の作成……………49
- (3) 「言葉の力」とその把握方法……………53
- (4) 初期の日本語指導……………55
- (5) 学級での学習に参加するために……………57

8 多文化共生に向けて

- (1) 異文化理解……………59
- (2) 仲間づくり・学級づくり……………61
- (3) 保護者との信頼関係づくり……………65
- (4) 将来を見据えて……………67

- ・ 学習支援関係……………71
- ・ 教材等一覧……………75

- ・ 研修・その他……………72

1 受入れに当たって

(1) 全ての子供たちのために

日本国憲法では「すべて国民は、法律の定めるところにより、その保護する子女に普通教育を受けさせる義務を負ふ」とあります。外国人には、国際人権規約（1994年日本批准）や児童の権利に関する条約（子どもの権利条約 1994年日本批准）を踏まえ、日本国籍ではない外国人児童生徒が義務教育諸学校への入学を希望する場合は、無償で受入れをしています。

日本ユニセフ協会抄訳子どもの権利条約 第28条1

子どもは教育を受ける権利をもっています。国は、すべての子どもが小学校に行けるようにしなければなりません。さらに上の学校に進みたいときには、みんなにそのチャンスが与えられなければなりません。（以下略）

日本の学校に在籍する外国人児童生徒等は増加し、定住する外国人も増えています。これからは、外国人の子供たちが将来にわたって日本に居住し、共生社会の一員として今後の日本を形成する存在となっていくことでしょう。

外国人児童生徒等が義務教育諸学校に編入することになると、教職員は「どうしたらよいのか不安だ、負担が増えて困る」とマイナスに考えてしまいがちです。しかし、外国人児童生徒等の受入れは、日本の児童生徒にとっても、よい影響を及ぼします。学齢期から多様な価値観や文化背景に触れることで、異文化を理解し、尊重し合う態度が育つことにつながります。そして、国際理解を深め、国際社会に生きる上で望ましい能力や態度が育つことが期待されるのです。

(2) 子供の気持ちに寄り添って

来日する多くの子供たちは、自分の意志で来たわけではありません。来日の経緯は保護者の就労や留学、中国残留邦人、国際結婚、海外からの帰国など様々です。子供の中には、日本に対する憧れや希望を抱いている子もいれば、全く言葉の通じない日本での生活に戸惑いを感じ、突然学校に編入することへ大きな不安を抱えている子供もいるでしょう。

また、外国人児童生徒等の中には生まれも育ちも日本ですが、家庭で本人と保護者が日本語以外の言語を使用していたり、日本語を使う機会が少なかったりすると、日本語の力が不十分なまま、日本の学校に入学や編入することになることがあります。

いずれの場合も、受け入れる教職員がそういった子供たちの家庭的な背景を理解して笑顔で接し、言葉に表せない気持ちを汲み取り、子供たちの気持ちに寄り添うことが大切です。教職員の接し方や指導の工夫が、子供たちの不安を取り除くことにつながるでしょう。

自分がこれらの言語の中で、生活し、学習することを考えると、子供の気持ちが、少し想像できますね！

おはよう！

الخير صباح (アラビア語)

안녕 (韓国語)

อรุณสวัสดิ์ (タイ語)

सुप्रभात (ヒンディー語)



ぐんまちゃん

(3) 母語の重要性

母語とは、一番初めに覚え、最もよく理解できる言語のことです。ものごとを考える時に使う言語です。日本語の習得や教科学習の理解に、母語は大きな力を発揮します。

母語の形成が未発達の状態に来日し、日本語での生活が中心となると、母語の力は来日した時のまま、あるいはほとんど忘れてしまうということにもなります。そうすると、日常生活では保護者と簡単な会話ができたとしても、悩みや将来のことなど複雑な内容を話し合えなくなってしまうます。また場合によっては、日本語が話せない親を「恥ずかしい」とコンプレックスに感じるなど、母国や自分のルーツを否定することになり、自身のアイデンティティに悩むことにもなります。

このように、外国人児童生徒等にとって母語はとても大切なものなのです。



外国人児童生徒等やその保護者に、家庭でも日本語を使って話すように勧めたほうがよいのでしょうか？



「家庭でも日本語を教えてください」と勧めるのではなく、家庭で保護者が一番得意な言葉で会話をすることを勧めるとよいでしょう。母語は親との関係をつないだり、言語習得に大きな力を発揮したりする大切な言葉です。母語と新しく学ぶ言語とは、表層面では異なって見えますが、深層面では互いにつながっていて、認知・学問的な側面を支える力の部分は共有していると言われています（カミンズの相互依存仮説／文科省手引き P33）。母語がしっかり身に付いている外国人児童生徒等は、それが大きな強みとなり将来の職業選択の幅を広げることができる場合もあります。保護者向けの翻訳資料や母語保持を支援するWeb ページもあるので、「母語支援」で検索し、保護者に説明する際に役立ててください。

◆ 愛知教育大学外国人児童生徒支援リソースルーム

http://www.resource-room.aichi-edu.ac.jp/kyozai_sonota.html



(4) 全教職員で取り組む体制づくり

外国人児童生徒等への教育の目的は、日本語で会話ができるだけでなく、外国人児童生徒等が在籍学級での学習活動に参加できるようになることです。教育の拠点は在籍学級にあるので、そこで児童生徒が安心して学び、生活できることは大変重要です。全ての児童生徒が安心して過ごせる環境を整えることが大切です。違いを認め、互いに助け合える共生を目指した学校づくりをしましょう。



①校内研修の企画（管理職・校内研修主任）

校内研修主任を中心に、外国人児童生徒等への教育の理解を深める研修を推進します。

＜例＞文科省手引き（P20）より

○研修テーマ（講師）

- ・外国につながる児童生徒の受入れで大切なこと（国際教室設置校校長）
- ・外国人市民として〇〇市に生活してみよう（外国人市民）
- ・外国につながる子供の保護者との連携（教育委員会相談担当）
- ・すべての児童生徒にとって安心できる学級づくり（大学教員 心理学）
- ・中学生から編入する外国人生徒の進路について（教育委員会高校担当 地域の会社社長）
- ・日本語教育について（大学教員 日本語指導の支援者）

②校内の連携・共通理解（日本語指導担当教員・外国人児童生徒等教育担当）

外国人児童生徒等への教育の長期的な指導計画を立てるとともに、担任や教科担当と連携して週や月ごとの短期指導目標や計画を立案して、実行していくことも大切です。

「取り出し」指導や「入り込み」指導を効果的に行うために、指導者、教科の選択、教材の選定など、積極的に指導体制をコーディネートしていきましょう。

＜例＞担任との打合せの工夫

- ・休み時間、放課後などに打合せをする。
- ・リクエストシートの活用もできる（学級の授業内容を「取り出し」指導で予習や復習してもらいたい時、担任から指導内容を連絡してもらう）。
- ・連絡ノートに指導内容を簡単に記入し、交換する。

リクエストシート

4年2組担任 → 日本語教室
6月23日(火) / 校時

	教科	課題
1	国語	意味調べ、教科書の音読練習
2	算数	
3	その他	



外国語ができなくても大丈夫！

日本語教室では、日本語指導担当教員が絵や写真を活用し、ジェスチャーを交えながら外国人児童生徒等に日本語で教えます。例えば、担任が「ここに名前を書いて」と伝えたい時は、名前を記入する場所を指さし、「書いて」と言いながらジェスチャーで表現します。もし「名前」が伝えにくかったら、名札を指さしたらどうでしょう。「ここに」「名前を」「書いて」と日本語とジェスチャー等を併用することで、立派な日本語の指導になります。このように学校生活における先生や周りの友達から話しかけられる日本語のシャワーから、外国人児童生徒等は多くの日本語を学んでいきます。担任が外国人児童生徒等の国の言葉を話せなくても、コミュニケーションは徐々にとれるようになります。もし思うように指導できずに悩んだ時は、一人で不安を抱え込まずに管理職や日本語指導担当教員、同僚に相談しましょう。そして、いつも笑顔を絶やさず子供の力を信じて指導することを心掛けてください。そうすれば、きっと外国人児童生徒等も安心して日本語を学ぶことができるでしょう。

2 受入れ準備

(1) 受入れまでの流れ

外国人児童生徒等を受け入れる時には、事前に十分な準備をして臨むことが大切です。学校の実態に応じて、以下のような手順を進めてください。

市町村教育委員会から外国人児童生徒等の編入・転入の連絡、情報提供

受入れの決定（管理職）

- 面接日の決定
- 各種書類（家庭調査票等）の手配（本書P11、12）
- 必要に応じて教育委員会に通訳者の依頼

学年・学級の決定（管理職、関係学年）

管理職の役割（管理職）（文科省手引きP12～21）

- 異文化理解や多文化共生の視点も含めた経営方針の提示
- 日本語指導に対応する学校体制の見直し
- ※ 必要に応じて地域の国際交流協会等との連携

校内における共通理解（全教職員）

- 外国人児童生徒等の文化背景
- 日本語指導担当教員（外国人児童生徒等教育担当）の役割や日本語指導の進め方
- 保護者との連絡方法
- 通知文書の作成

面接をするための打合せ（管理職、担任、日本語指導担当教員など）

- 説明する内容の整理や役割分担の確認
- 配付する書類や資料の確認
- 日本語指導をするための教室環境についての相談

面接に使う書類や資料の準備（事務職員、給食担当、養護教諭など）（本書P12）

- 保護者に渡す書類
- 説明に使う視覚的な資料（ビデオや写真など）

①通訳者の依頼

- ・校内で通訳者が確保できない場合、市町村教育委員会に相談し、通訳者（有償）を依頼してもらいます。
- ・母語の対訳集やA I 音声翻訳機（翻訳アプリ）も活用できます（本書P70）。
- ※ 保護者の親戚や知人に通訳ができる人がいる場合や、保護者の職場に通訳者がいる場合もあります。

②通知文書の作成に関する共通理解（本書P12、P66）

- ・保護者に内容を分かりやすく伝えるため、大事な箇所に印を付けるなど工夫します。
- ・母語に翻訳します。
- ・「やさしい日本語」に直します。

- ・翻訳する場合は全てを翻訳するのではなく、どうしても伝えたいことだけを翻訳します。
- ・長文や婉曲表現、二重否定など自動翻訳ではうまく訳せないことがあります。「やさしい日本語」で翻訳するとよいでしょう。

<翻訳通知文書例>

○小学校
第4学年通信

かがやき

令和〇年1月7日

あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願いたします。
子どもたちの冬休みの生活はいかがでしたか。5年生に向けて、これまでの経験や学習したことを活用して、更に向上を目指し、今学期を充実したものにしたいと思います。

連絡・お願い

○ No dia 8 (qua) tiraremos as medidas do corpo. Os alunos vestirão o uniforme de educação física de verão. Se necessário, o cabelo deve ser preso na parte lateral da cabeça.

○ No dia 9 (qui) haverá aula de grafia, no ginásio de esportes. Tragam:
 ・ Jogo de caligrafia, pincel e "shitajiki"
 ・ Jornal referente a 2 dias, modelo, saco plástico para colocar o pincel.
 ・ Sacola de supermercado para colocar os jornais usados.

※ 文書で伝わらない内容は、直接会って説明したり通訳者を依頼したりします。



「やさしい日本語」って何ですか？



「やさしい日本語」とは、外国人児童生徒等や保護者が理解しやすいように配慮した日本語のことです。これは、外国人児童生徒等だけでなく誰にとっても、理解しやすいものとなります。必要に応じて、通知文書作成やコミュニケーションの際に使いましょう。

POINT

「やさしい日本語」を使いましょう

- ① 一文を短く（言葉は短く簡潔に）
- ② 難しい単語を使用しない
- ③ 漢字等にはひらがなでルビを振る など

<「やさしい日本語」の例>

- × ご出身はどちらですか？ → ○ 国はどこですか？
- × 来月は授業参観があります。 → ○ 来月はお父さんお母さんが授業を見ます。

◆ 豊橋市多文化共生・国際課「やさしい日本語」を使ってみよう！

<https://www.city.toyohashi.lg.jp/23542.htm>

(2)各担当の準備

管理職・教務主任

- 日本の学校教育制度や学校生活に関する資料
- 学校生活や行事を伝えるビデオや写真（卒業アルバム等）
- 学用品等の説明資料（新入生入学案内等）
- 聞き取りシート（本書P15）
- 家庭調査票（各学校の書式）

担任・日本語指導担当教員（外国人児童生徒等教育担当）

- 面接での説明内容（本書P14）
- 在籍学級・日本語指導教室教室の環境づくり（本書P18）

給食担当・栄養教諭

- 給食開始の手配
- 学校給食についての説明資料
- 外国人児童生徒等の母国の食文化の情報収集
- アレルギー関係の書類

事務職員

- 教育関係費用の説明資料（就学援助を含む）
- 給食費に関する説明資料、給食費振込み依頼書

養護教諭・保健主事

- 保健調査票
- 日本スポーツ振興センターへの加入についての説明とその手続き
- 結核健診問診票、心臓病調査票の書類など
- 水泳や持久走などの参加承諾書（時期による 学校によっては体育主任）

急な編入・転入に備えて、受入れの書類セットを準備しておくといでしょう。

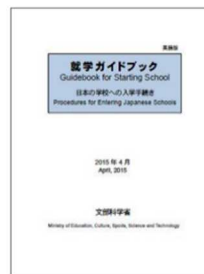
①学校教育制度や学校生活に関する資料（本書P69）

◆外国人児童生徒のための就学ガイドブック（文部科学省）

◆外国人児童生徒のための就学ガイド（概要版）

英語、韓国・朝鮮語、ベトナム語、
フィリピン語、中国語、ポルトガル語、
スペイン語の各言語別の就学案内

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/003/1320860.htm



②給食の通知文書について

◆食物アレルギーに関する調査表

かすたねっと（文部科学省）→**保健**

<https://casta-net.mext.go.jp/bunsho/facet/index/10/81+83/8/79/2/5>

◆給食について

かすたねっと（文部科学省）→**日課・持ち物**

<https://casta-net.mext.go.jp/bunsho/facet/index/10/81+83/8/79/2/200>

「かすたねっと」掲載の資料については、資料を選択すると表示される「利用条件」をお読みください。

上記の条件に合意し、文書を取得する

をクリックすれば資料を入手できます。利用規約についての詳細は（本書P71）をご覧ください。

③集金関係の通知文書

◆学校集金の振替口座について

かすたねっと（文部科学省）→**費用・給付**

<https://casta-net.mext.go.jp/bunsho/facet/index/10/81+83/8/79/2/3>

④保健関係の通知文書

◆保健調査票、心臓検診問診票、尿検査など

かすたねっと（文部科学省）→**保健**

<https://casta-net.mext.go.jp/bunsho/facet/index/10/81+83/8/79/2/5>

⑤その他翻訳通知文書

◆かすたねっと（文部科学省）

→**文書検索** *保護者への通知文書に利用できる多言語対応の文書資料が多数

<https://casta-net.mext.go.jp/>

翻訳通知文書

- ・家庭調査票
- ・欠席届
- ・家庭訪問のお知らせ
- ・インフルエンザ予防対策
- ・プールカードの記入
- ・持久走大会承諾書
- ・授業参観

など

<翻訳通知文書例>大泉町のスペイン語版保健調査

ENCUESTA DE SALUD			
保健調査票			
Escuela Municipal Oizumigakko			
Grado	4	5	6
Turno			
Sello Padre			
<small>※ ① Solicitamos que los Padres completen este formulario, marquen con un círculo los puntos correspondientes y sellen con su "Inkan" el cuadro de la izquierda. ② En caso de haber alguna modificación para el próximo año lectivo, por favor, haga la corrección con tinta roja.</small>			
(Escribir encima en castellano)		Mac	Fecha de Nacimiento
Nombre del Padre/Resp.:		Fen	Año Heisei ...mes ... día
Dirección:		Tel.: ()	
★ ESCRIBA UN CONTACTO PARA AVISAR EN CASO DE ALGUNA DOLENCIA O HERIDA GRAVE.			
Nombre (parentesco)	Nombre del Lugar	Número Telefónico	
氏名 (続柄)	連絡先名	電話番号	

3 受入れのための面接

(1) 面接の流れ

面接時は、外国人児童生徒等や保護者は不安な気持ちでいっぱいです。言葉だけの説明では十分に伝わらないことが多く、更に不安を招いてしまうことがあります。面接では、翻訳資料を用意するなど、温かく受け入れる雰囲気をつくることが重要です。

外国人児童生徒等と保護者来校

通訳が必要な場合、まず学校で通訳者を依頼しましょう。もし通訳者が同席できない場合は、通訳ができる保護者の親戚や知人にも同席してもらおうと、外国人児童生徒等も保護者も安心して面接に臨めるでしょう。母語の対訳集を用意したり、AI音声翻訳機や翻訳アプリなどを活用したりすることもできます（本書P70）。

管理職、担任、日本語指導担当教員などの紹介

内容

- 学校生活やルールの説明
- 教育関係費用の説明
- 必要な学用品等の説明
- 聞き取りシートの記入（本書P16）
- 保護者と確実に連絡が取れる方法の確認
（通訳ができる保護者の親戚や知人、勤務先の通訳者）
- 保護者の記入が必要な書類の説明と記入
（家で記入し、後日提出する場合もある）
- 初登校日の時間、場所、持ち物などの連絡
- 支援サービスの案内（本書P70）
- 通学路や学校周辺施設の確認
 - ・学校周辺地図を渡して、帰宅時に通学路や学校周辺施設の確認をしてもらうとよいでしょう。

* 説明をする場面では、事前準備で用意した学校行事のビデオや写真（卒業アルバム等）を活用しましょう。

①学校生活やルールの説明

- 学校の一日の流れ、学習する内容、年間の主な行事予定
- 欠席、遅刻時の連絡方法
- 通学路や通学班（誰と学校に来るか）、登校手段
- 中学校で自転車通学の場合は、交通ルールの確認やヘルメットの着用
- 家庭学習（宿題）

※ 掃除、食事、宿題など日本の文化や習慣と異なる国もあるので、詳しく説明します。

②教育関係費用の説明

- 公立の小・中学校における授業料と教科書は無償であること
- 教育関係に費用がかかること
 - ・補助教材（ワーク、テスト、ドリルなど）、習字道具、絵の具セットなど
 - ・旅行費（修学旅行、校外学習費など）

※ 購入場所、納入方法、およその金額、口座振替についてなどを説明します。

※ 入学時に限らず学期の途中で購入するものや進級してから上の学年で使用するものもあることや新品購入でなくてもよい場合はその旨を伝えます。また、どうしても用意できない時は学校の貸出品を貸すことができる場合もあることを伝えます。

③学用品等の説明

- 通学時の服装や持ち物（ランドセル、通学カバン、制服、体育着など）
- 学校で使う文房具類の説明（筆箱、ノートなど）
- 給食セット（給食着やマスク、はしやスプーンなど）

※ 家庭で洗い清潔を保つように伝えます。



※ このような資料を用意するとよい（本書P69 「たのしい！とやまの小学校」等）。

④特別な配慮の有無

- 学習面、健康上、宗教上の配慮

⑤滞在予定

- 帰国予定や永住希望の確認

※ 転出や帰国の際は、早めに学校に連絡するように伝えます。

⑥進路希望

- 本人の希望、保護者の願いの確認

聞き取りシート
本書P15、16、73

(2) 聞き取りシート

外国人児童生徒等は、言語や文化、来日に至る背景などが様々です。一度に全てを知ることが難しいですが、初めての面接では必要なことを聞き、**聞き取りシート**（本書P73）に記入して指導に生かしましょう。この聞き取りシートは個別の指導計画（本書P50～52）を作成する時にも役立ちます。転入の場合は、転出した学校からの指導要録の写しや引継ぎ資料を活用することができます。

また面接時は、十分な時間がとれないことがあります。**家庭調査票と内容が重複する場合は、聞き取りシートに記入するのは必要な内容項目のみに**しましょう。

※ 面接結果等を踏まえて「**特別の教育課程**」（本書P20）を実施するか検討し、実施する場合には、設置者である教育委員会に書類を提出するなどの必要な手続きを行うことになります。

◆ 聞き取りシートの内容例 文科省手引き（P41）より

- | | | |
|--------------|------------|--------------|
| • 本名と呼称 | • 性別 | • 生年月日 |
| • 来日年月日 | • 現住所 | • 緊急連絡先 |
| • 家族構成 | • 国籍 | • 家庭内使用言語 |
| • 滞在期間 | • 滞在予定 | • 日本語学習歴 |
| • 出身国での学習 | • 好きな教科 | • 得意なこと・趣味 |
| • 将来の希望・進路 | • 病歴やアレルギー | • 発達障害の診断の有無 |
| • 宗教上の配慮事項など | | |



「先生、僕の名前、違うよ」

外国から日本の学校に編入したAさんが、ある程度日常会話ができるようになった頃に言いました。

「僕の名前は、本当は〇〇って言うんだよ」

どうやら、日本の役所でふりがなを書く時、担当者がアルファベットの綴りを見て、ローマ字読みで登録してしまっていたようです。日本語がだんだん話せるようになり、ようやく自分のことを伝えられるようになったのですね。数か月も違う名前と呼ばれていたAさんは、どんなに寂しい思いをしたことでしょう。

名前は、個人のアイデンティティの根源です。初めての面接のときに、本名をしっかりと確認しましょう。また、世界には様々な名前があり、必ずしも姓と名に分かれないこともあります。学校でどのように呼ばれたいかを聞き、本人・保護者の意向を尊重するようにしましょう。

※ 氏名のふりがなの変更は可能です。変更する際は、市町村の役所に相談することを保護者に伝えましょう。

<例>

本書 P 73

聞き取りシート(編入時)

(年 月 日 記入者)

氏 名		性 別	男 女	生年 月 日	限られた時間の中で聞き取るので、家庭調査票等で分かっている部分は、後で記入します。
日本での呼び名		国 籍		来日 年 月 日	
現 住 所		緊急 連絡先	①	②	

母 語	語	家庭内 使用言語	父()語 日本語ができる ・ できない 母()語 日本語ができる ・ できない
母国での 就 学 歴	幼稚園・保育園 歳 ~ 歳	日本語が できる 家族	いる 祖父・祖母・兄・姉・おじ・おば・その他() いない
	小学校 歳(年生) ~ 歳(年生)	通知文書 の翻訳	翻訳不要 ・ ふりがなが必要 翻訳が必要()語
日本語の学習経験	無 ・ 有 (ひらがな・かたかな・会話)	滞在期間 や予定 永住希望	()年頃まで滞在予定 ・ 永住希望
性格・趣味・ 得意なこと・ 苦手な教科など		保護者の 願い (進学に ついての 考えなど)	
健康面の 留意事項 (アレルギーなど)		宗教上の 配慮 (必要な 場合)	

母語での学習経験 ※ 保護者が分かる範囲で簡単に聞き取る

教 科	学習した主な内容	○・×	教 科	学習した主な内容	○・×
国語			社会		
算数	たし算(けたまで)		理科		
	ひき算(けたまで)		音楽	楽器()	
	かけ算(けたまで)		<ul style="list-style-type: none"> 算数・数学は国によって、進度に差があるので、聞いておくと今後の指導に役立ちます。 実技教科は、音楽や図工のない国もあるのでどのような学習歴があるか、分かる範囲で聞くとよいでしょう。 		
	わり算(けたまで)				
	図形				
	長さ・重さ・かさ				
時刻と時間					
その他母国で学習していた教科や、特別な活動、習い事等があれば					
宿題や家庭学習の習慣			有 (時間くらい) ・ 無		

受入れのための面接

4 学級の準備

(1) 在籍学級担任の心構え

外国人児童生徒等の受入れが決まったら、担任は「言葉が通じなくて大丈夫だろうか」「学級になじめるだろうか」など不安や心配に思うのではないのでしょうか。しかし、外国人児童生徒等の受入れは、学級の児童生徒にとっても多様な価値観や文化を知り、成長できる大きなチャンスであり、学級にとってもプラスの出来事だということを理解しておきましょう。

また、異文化の中で育っていく外国人児童生徒等は、言葉の問題や異文化間での価値観、習慣の違いなどについて一人一人が課題を抱えているため、きめ細かなケアが必要です（本書P59～64）。

POINT

一人で抱え込まないで

外国人児童生徒等への指導が始まると、言葉や文化の違いなどから、担任は様々な悩みや苦勞があることでしょう。

でも一人で抱え込まず、いろいろな人に相談しましょう。

学校においても組織でサポートする体制づくりが重要です。

日本語指導担当教員（外国人児童生徒等教育担当）がコーディネーターとなり、担任を支えましょう。



コラム

伝えたいという気持ち

コミュニケーションの基本は、相手に伝えたいという気持ちではないでしょうか。

ジェスチャー、イラスト、写真、具体物と、言葉が通じなくてもコミュニケーションする方法はたくさんあります。担任が奮闘している姿を見て、学級の児童生徒は「自分も先生のようにすれば伝わるんだな」と学んでいます。もし、「これはどうせ言っても通じないから、言わなくていい」という態度を担任がとったらどうでしょう。学級の児童生徒に、「外国人児童生徒等とはあまり関わらなくてもいい」というメッセージを発していることになりませんか。

外国人児童生徒等からも、何かを伝えようとする時があります。そんな時もすぐ通訳を頼むのではなく、表情やジェスチャーから、何を言いたいのか読み取りましょう。生活の様子をいつも観察していると、おおよそのことが分かってくると思います。

相手の言っていることが分かった、自分の言いたいことが伝わったということは、誰にとってもうれしいものです。「〇〇さんの言いたいことが分かった！」という時は、お互いに自然に笑顔があふれます。そのことが、生きた言葉の習得にもつながっていくのです。

(2) 在籍学級担任の準備

□ 在籍学級の児童生徒への事前指導

- ・外国人児童生徒等の名前や出身国を知らせ、文化の違いや日本語が理解できないことにより、分からないことやうまく行動ができないことがあることを伝えます。
- ・外国人児童生徒等の母語の挨拶を学級の児童生徒と練習しておきましょう。挨拶の言葉や簡単な会話表現を書いた掲示をしておくのもよいでしょう。

< 掲示物の例 (タガログ語) >



□ コミュニケーションのための資料・機器等

- ・学校生活を説明するイラストや写真
- ・外国人児童生徒等の国の旅行ガイドブックや対話集
- ・一人一台端末、AI音声翻訳機や翻訳アプリ

□ 学校生活に関する資料

- ・ロッカー、机の引き出し、靴箱、トイレなどの使い方を具体的に指導する視覚資料
(「ひと目でわかる! 教室で使うみんなのことば」本書P75)
- ※ 新入生用資料等を利用することもできます。

□ 外国人児童生徒等への配慮

- ・座席
 - ※ 編入当初は外国人児童生徒等は担任の近くとし、見守りや声掛けができるようにします。隣の席は積極的に関わりをもとうとする児童生徒を配置するのもよいですが、その児童生徒に過度の負担にならないよう配慮します。
- ・机や黒板に貼るための外国人児童生徒等の名前を書いたカード
 - ※ 自分の名前をすぐには書けないので、カードを見て書けるようにします。カタカナで表記する場合がありますが、学齢等を考慮してひらがなにしてもよいでしょう。

(3) 「取り出し」指導のための教室環境づくり

学校によっては外国人児童生徒等の急な受入れにより、日本語指導を行う教室をすぐに用意できないこともあります。しかし、児童生徒が落ち着いて、安心して学べる教室環境を整えることは重要です。児童生徒が、興味・関心をもち楽しく学習できる環境を日本語指導担当教員(外国人児童生徒等教育担当)が中心となって整えましょう。

< 例 > 教室に準備するもの

- ・ 50音表 (ひらがな・カタカナ) ・ 時間割 ・ カレンダー
- ・ 黒板やホワイトボード ・ 作品等の掲示物を貼れるスペース



黒板の上に
児童生徒の母国の国旗を掲示



学習ごとの教材・
学習プリントの入った引き出し



日本語教室で
2か所に分かれて指導する様子

5 日本語指導を始めるに当たって

(1) 日本語指導のプログラム

目標1

学校や社会生活に関する、最低限のルールを理解し、1～2語程度で意思疎通できるようにする。

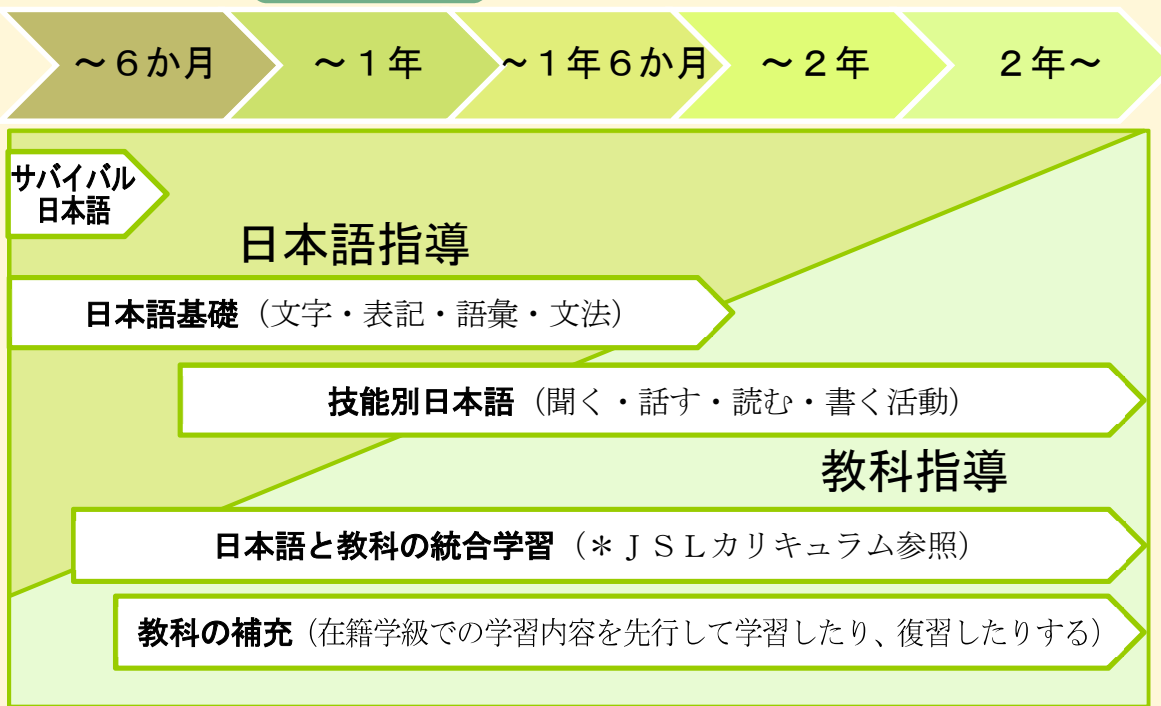
目標2

日本語で学校生活に参加するために必要な、文字や文型など基礎的な日本語の力を育てることができるようにする。

目標3

教科等において、課題把握・情報収集・観察等の様々な活動に日本語で参加することができるようにする。

※下の図は、「日本語指導」と「教科指導」の割合を示しています。サバイバル日本語の頃は、「日本語指導」の占める割合が大きいです。次第に「教科指導」の割合が大きくなります。



※ 上記は文部科学省「日本語指導が必要な児童生徒を対象とした指導の在り方に関する検討会議（平成25年3月）『特別の教育課程』による日本語指導を行う児童生徒の日本語の能力に応じた指導内容例」を参考に作成しました。

※ サバイバル日本語とは、日本の学校生活や社会生活について必要な知識や日本語を使って行動する力を付けることを目的とし、挨拶の言葉や具体的な場面で使う日本語表現の学習です。

※ 上図の「サバイバル日本語」～「教科の補充」は、それに特化した授業をするわけではありません。それらの要素を取り入れた授業を行います。

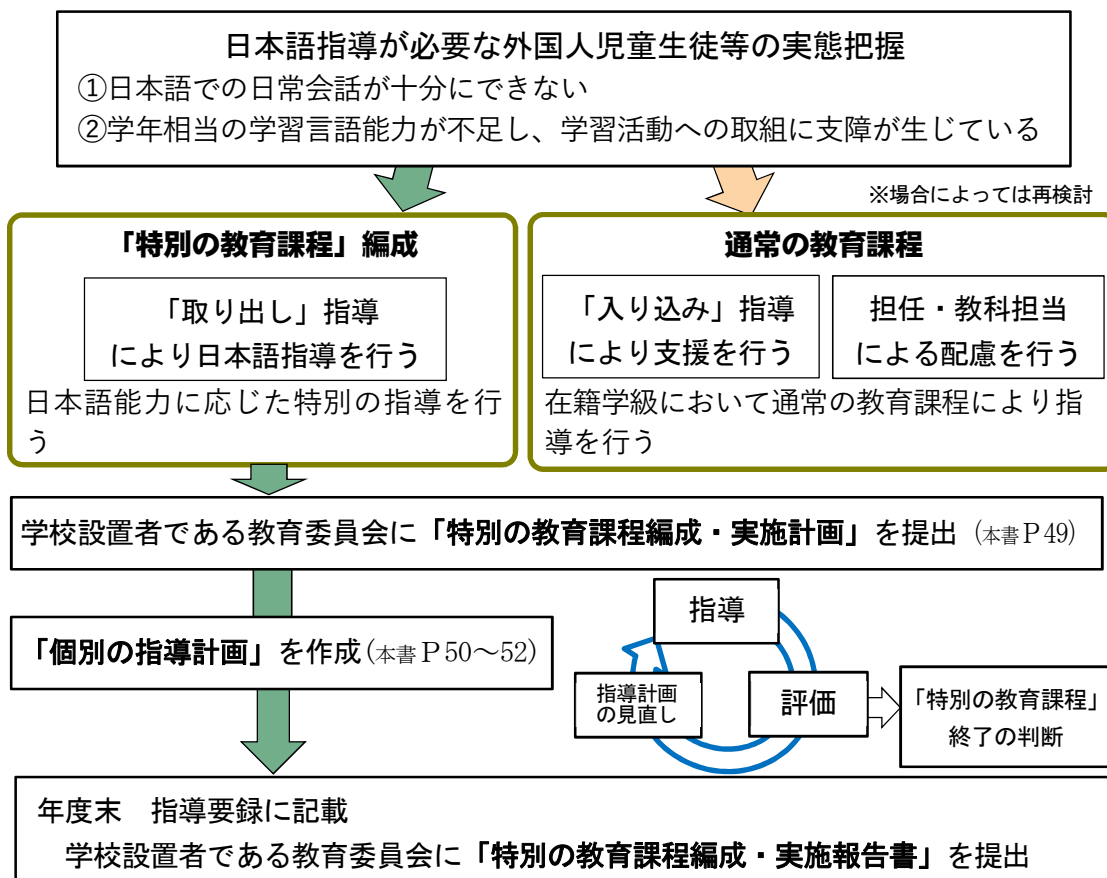
<参照>

- ・「サバイバル日本語」等、各指導について(文科省手引き P27～38)
- ・J S Lカリキュラムについて



文部科学省「J S Lカリキュラム最終報告書」

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/003/001.htm

(2) 「特別の教育課程」編成の流れ



○「取り出し」指導と「入り込み」指導について

「取り出し」指導	「入り込み」指導
<p>日本語指導担当教員が、在籍学級とは別の教室で、外国人児童生徒等に対し、個別の課題に対応した指導を行うことを「取り出し」指導と言います。</p> 	<p>日本語指導担当教員が、外国人児童生徒等が在籍学級の授業を受けているところへ行き、指導を行うことを「入り込み」指導と言います。</p> 
<p style="text-align: center;">POINT</p> <p>「取り出し」指導では、日本語指導や生活適応指導、教科指導を行います。学級の授業が理解できるように先行学習をしたり、学級で学んだことを復習したりすることもあります。「取り出し」指導が、在籍学級の授業に参加するための支援となるようにしましょう。</p>	<p style="text-align: center;">POINT</p> <p>「入り込み」指導では、学級全体を見守り、外国人児童生徒等が必要としている時に適切な指導を行います。外国人児童生徒等の横に張り付き、通訳や授業の解説をするのではなく、教師の話や友達の発言と日本語指導担当教員の話が重ならないようにすることが大切です。対象児童生徒だけでなく、学級にいる他の児童生徒に対して指導を行うこともあります。</p>

6 日本語初期指導ぐんぐんプログラム

(1) ぐんぐんプログラムについて

日本語を初めて学ぶ児童生徒に対して行う「取り出し」指導プログラムです。一つの単元を3～4のモジュールで構成しました。外国人児童生徒等が日本の学校生活を送る上で、すぐに必要と想定される語彙を中心に上げています。

◆「取り出し」指導の考え方

- ・日本語を初めて学ぶ児童生徒には、「取り出し」指導をします。一日の全ての時間を取り出すのではなく、一緒に学習できる内容であれば在籍学級での授業に参加し、学習することとして計画するとよいでしょう。低学年の場合や教科の内容によっては、「取り出し」指導をせずに参加できるものは沢山あります。
- ・算数・数学は、学習内容によっては早い段階で参加できる場合もあります。母国での学習経験を把握しましょう。
- ・指導案の全15時間の内容を2週間で終える必要はありません。
- ・第1時から第15時までを順番に行う必要はありません。

(指導計画作成表は本書P27、74)

◆指導者

- ・日本語指導担当教員がいない学校では担任と連携し、管理職、教務主任、担任外の教員など、校内で指導する担当教員を決め外国人児童生徒等を別室で取り出して指導をします。
- ・教務主任が中心となり、時間割を作成します。
- ・初期段階では、母語支援員等とTTが行えるような指導体制になると更によいでしょう。

◆指導に当たって

- ・指導計画作成に当たっては、外国人児童生徒等の発達段階により理解度や経験に差があるので、1時間の学習内容を精選し、指導する語彙を変更したり、難しいものは後に回したりし、それぞれの学校で工夫して計画を立てます。
- ・指導者は、このプログラムで使用する語彙を「取り出し」指導で指導しなくても、学級での活動や友達とのコミュニケーションの中で学習することもできます。例えば、「給食」「遊びに入れて」「学習や生活に必要な物の名前」などです。
- ・生活や学習の必要に応じて取り上げる語彙や表現は変更しても構いません（まもなく水泳の学習が始まる場合、「水着」や「プールカード」などを教えるなど）。
- ・言語習得のプロセスはスパイラルに進むと言われていています。外国人児童生徒等の興味・関心や必要性を考慮し、日本語でコミュニケーションすることの楽しさや、意味が感じられる学習活動にすることが重要です。学習内容が身に付いていないからと、同じ学習項目にとどまらず、次の学習に進むことが大切です。そして、別のときに生活や学習状況に関連付けて再び取り上げるとよいでしょう。

◆ 2週間日本語指導計画例（4年A組の時間表例）

	月	火	水	木	金		月	火	水	木	金
1	1 国語	◇算数	4 国語	◇算数	7 国語	1	9 国語	◇算数	12 国語	◇算数	◇国語
2	2 算数	3 国語	理科	5 国語	◇社会	2	10 算数	11 国語	理科	13 国語	◇社会
3	/ 社会	/ 総合	外国語	6 社会	体育	3	/ 社会	◇総合	外国語	14 社会	体育
4	体育	◇国語	/ 算数	/ 国語	/ 道徳	4	体育	/ 国語	/ 算数	/ 国語	15 道徳
5	※学活	/ 体育	音楽	図工	8 算数	5	/ 社会	◇総合	外国語	16 社会	体育
6		理科	◇総合	図工	理科	6		理科	◇総合	図工	理科

※は外国人児童生徒等を交えた学級活動を計画します。

「8 算数」は、在籍学級が算数を行っている時に外国人児童生徒等を取り出し、日本語指導プログラムの第8時を行うという意味です。

◇は「取り出し」指導をしたくても、指導者がいない等の理由で取り出せない時間です。

◆ 「取り出し」指導ができない時間（◇）に、在籍学級で担任が見守る中、外国人児童生徒等が学習を行う場合の例（日本語の学習を始めたばかりの頃）

- 日本語学習に関する動画をタブレット等で視聴する。
- 自己紹介をするための自画像やイラストを描く。
- 算数の到達度を測るテストをする。国や地域により、数字や記号の書き方や筆算方法が違うので、その確認もできる。在籍学年の2～3年前まで遡って、計算のまとめテスト等を行うとよい。
- 中学生は、小学校の計算のまとめテストをする。
- 到達度テストの結果から、学習していても定着が不十分なところを復習する。
- ひらがな学習が始まったら、その練習をする。

<教材例>

- 「ちびむすドリル小学生」（本書P75）・「さんすうプリモン」（本書P75）
- 「愛知教育大学外国人児童生徒支援リソースルーム」（本書P56、75）

◆ 授業前モジュール学習の例（「取り出し」指導を授業時間に行えない場合の工夫）

	月	火	水	木	金
授業前		1-④ 15分		3-① 15分	4-① 15分
1	1 国語	◇算数	国語	理科	国語

授業前に「取り出し」指導を行うと、15分×3日＝45分で1コマ分のモジュール学習が可能です。

- 朝学習や朝読書の時間等を使ってモジュール学習を計画する。
- 指導に当たっては、担任外でローテーションを組むなどして担任を支援したり、時には担任が直接指導をしたりする。
- 一つの単元を分割してモジュール学習ができるが、文字指導をしてもよい。（本書P23、24）

※ なるべく早く在籍学級の授業に参加できるように、日本語指導を進めましょう。

(2) 指導案の活用方法

①指導案

1 単元 1 ページにまとめてあります。指導者が指導案を 1 時間ごとに印刷し活用することができます。使用した指導案や教材を今後のためにファイルしておきましょう。

学級担任は、「取り出し」指導でどのような活動を行ったか確認し、学級での指導に生かしましょう。

担任

確認後、サイン

配列時間と単元名

2 学校生活をスタートしよう 指導者 ()

学 習 活 動	時間	・留意点 ○教材例
<input type="checkbox"/> ①挨拶をする「よろしくお願いします」ほか 前時 T: S: わたしはカルロスです T: よろしく。 T: おねがいします。 T: S: T: S: わたしはカル T: (喜びの S: イラスト T:	10分	○「こどもの日本語ライブラリ」 ・絵カード等の参考としての例示 (全てを使用しなくてもよい) ・自作教材や市販の教材などの活用も可 □「ごめんなさい」 □「失礼します」 □「失礼し
<input type="checkbox"/> ②「いい」「だめ」を言う T: (本 S: だ T: (S: い T: (S: い T: よ	10分	○『日本語学級 1』 P 2～5 ○「こどもの日本語ライブラリ」基本検索→教材→ 『 』は書籍名 「 」はWeb ページからダウンロードできる教材 ※ 教材一覧は本書 P75
<input type="checkbox"/> ③「トイレ(水)いいですか」を言う ・授業中トイレに行こうとするイラストを見せ、「いい？だめ？」と問いかけ だめなことを知る	10分	○『日本語学級 1』 P 3 ○「こどもの日本語ライブラリ」会話練習帳 2
本時の振り返り ・本時で学習した語彙や表現を復習する(イラストを見て、言葉を使う。「いいですか」のやりとりをする)。	5分	・学校で共通の挨拶が決まっていれば、それを使って終わりの挨拶を言う。
メモ		引継ぎ等 <例> いる、いないを言うことができた。右、左は混乱している。 次時の指導者が変わっても、前時の様子や習得状況が分かるようにメモします。

目安なので、児童生徒の実態に合わせて変更可

は、習得状況の記入欄

例
 よくできた◎
 できた○
 もう少し△

Tは教員
Sは児童生徒

『 』は書籍名

②モジュール学習の組み方

◆授業前(朝学習、朝読書など)の時間を活用する例(本書P29 単元2-④より)

④「給食」「掃除」について知る 本書P45

- ・給食・掃除の活動に参加する前に学習するとよい。
- ・給食・掃除の活動場面のイラスト(実際の写真)を見る。給食・掃除に関連した言い方を知る。

例 □はし □おぼん □ほうき □ぞうきん
□いただきます □ごちそうさま


単元から、
抜き出した
モジュール

学級の実情や児童生徒の実態に合わせて、単元から太線で区切ったモジュールを抜き出し、指導しても構いません。

- <例>・「掃除や給食」への参加がある日に、単元から「給食」「掃除」に関する部分だけを抜き出して指導する。
- ・理科の授業で天気学習をするため「天気」だけを先に学習する。

◆二つの単元から必要な部分を抜き出して、組み合わせて指導する例

生活や学習の必要性に応じて、二つの単元から内容の一部をそれぞれ抜き出し、組み合わせて1時間を計画してモジュール学習することもできます。

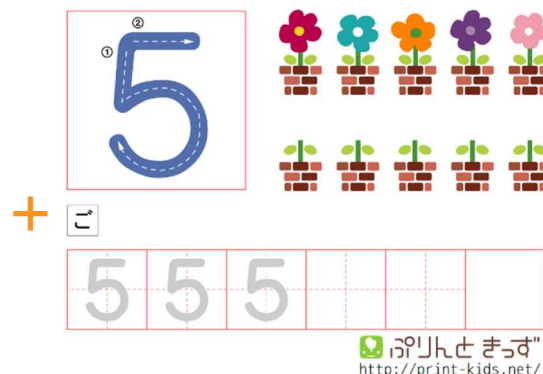
- <例>バス旅行でクイズを出すために、単元4-②「何ですか?」と単元10-②「動物の名前が分かる」を抜き出して組み合わせ、日本語指導をする。
- 児童：シルエット  を友達に見せて「何ですか?」 答え「うさぎ」

◆日本語初期指導ぐんぐんプログラムの単元の一部と文字指導を組み合わせた例

3 数を言おう

指導者()

学 習 活 動	時間	・留意点 ○教材例
前時の復習 ・前時に使ったイラストを見せたり、Tが実際に紙を床に捨てたりして、「いい?だめ?」と問いかける。	5分	・授業開始の挨拶をTが言う。
①1から10の言い方が分かる ・低学年の場合は、具体物を数えることから始める。 ・数カードを1~10まで並べる。 T: いち、に、さん、よん、ご、ろく、なな、はち、きゅう、じゅう(と指さしながら読む)。 ・1から順に、一つずつTの後について言う。 ・数カード1~5までなど限定して並べたり、3から並べたりしているいろいろなやり方で読む。 ・早く覚えられる場合は、10から逆に言う、カードをばらばらにして言うなどの活動をする。 ・カルタのように、教師が言った数カードを取るゲームをすることもできる。	15分	・国により数字の書き方が違ったり、その国独自の数字を使っていたりすることに注意する。 ○数カード(算数セット) ○小学校1年生の算数プリントを使ってもよい。 ○「ぶりんときっず」→算数プリント: 幼児~1年生→数字の練習 ・1回で全て覚えるのではなくこの後も繰り返し学習して覚えるようにする。



ぐんぐんと きっず
http://print-kids.net/

<例>「前時の復習」「1から10の言い方が分かる」(20分) + 10までの数字の練習(25分) = 45分

- ・単元の一部の内容とそれに関連した文字指導を組み合わせても構いません。
- ・モジュールを組む時には、児童生徒の発達段階や理解度、経験に合わせて計画します。

(3) 単元一覧・指導記録表

時	単元名	指導事項（主な表現）	習得状況	日付	校時	指導者名
P28	1 挨拶・自己紹介をしよう	①挨拶をする「おはようございます」「こんにちは」「ありがとう」				
		②自分の名前を言う 「わたし（ぼく）は～です」				
		③自分の名前を見て分かる				
		④自分の名前を書く				
P29	2 学校生活をスタートしよう	①挨拶をする「よろしくお願いします」「ごめんなさい」「失礼します」				
		②「いい」「だめ」を言う				
		③「トイレ(水)いいですか」を言う				
		④「給食」「掃除」について知る 例「いただきます」「ごちそうさま」				
P30	3 数を言おう	①1から10の言い方が分かる				
		②「わたしは〇歳です」を言う 「はい」「いいえ」で答える				
		③「ある」「ない」を言う				
P31	4 教室の物を知ろう	①身の回りの物の名前が分かる 例 机、椅子、黒板、筆箱、本、ノート				
		②「何ですか」と質問する				
		③「分かる」「分からない」を言う				
P32	5 身近な人を遊びに誘おう	①身近な人の言い方が分かる 例 先生、友達、家族、お父さん、お母さん				
		②「誰ですか」と質問する				
		③「入れて」「～しよう」を言う				
P33	6 学校の場所を知ろう	①教室等の名前が分かる 例 廊下、トイレ、図書室、音楽室				
		②「どこですか」が分かる				
		③「ここ」「そこ」「あそこ」を言う				
P34	7 勉強の言葉を知ろう	①指示の言葉が分かり、行動する 例 出して、しまつて、立つて、座つて 来て、見て、聞いて、読んで、書いて				
		②「きのう・きょう・あした」を言う				
		③教科名が分かる 「あしたは(国語)ある?」「〇時間目、何?」				

時	単元名	指導事項(主な表現)	習得状況	日付	校時	指導者名
8 P35	遊び方を 聞こう	①「できる」「できない」を言う				
		②「こう・そう・ちがう」が分かる				
9 P36	食べ物・ 飲み物の 名前を 知ろう	①食べ物・飲み物の名前が分かる 例 バナナ、りんご、ごはん、パン、水				
		②「食べる」「食べない」を言う				
		③「飲む」「飲まない」を言う				
10 P37	好き・ 好きじゃ ないを 伝えよう	①「好き」「好きじゃない」が分かる				
		②動物の名前が分かる 例 犬、猫、猿、ねずみ、うさぎ				
		③「好きですか？」に答える 「(犬)が好き(です)」「(猫)が好き じゃない(です)」				
11 P38	月日・ 曜日を 伝えよう	①「今日は〇月〇日〇曜日」を言う				
		②学習や生活に必要な物の名前が分かる 例 ランドセル、かばん、教科書、上履き				
		③「忘れた」「貸して」を言う 例「鉛筆、忘れました」 「〇さん、貸してください」「ありがとう」				
12 P39	危険を 知ろう	①「いる」「いない」を言う				
		②方向の言い方が分かる 例 右、左、真ん中、前、後ろ、上、下				
		③「あぶない」「止まれ」が分かる				
13 P40	誰の持ち 物か伝え よう	①天気の違いが分かる 例 晴れ、曇り、雨				
		②「誰のですか」が分かる 「わたしのです」「〇さんのです」を言う				
14 P41	体調を 伝えよう	①体の部分の名前が分かる				
		②「大丈夫?」「痛い」 「気持ち悪い」「熱がある」を言う				
		③「(学校を)休みます」が分かる				
15 P42	時刻を伝 えよう	①「同じ」「違う」を言う				
		②「〇時」「〇時半」を言う 例 起きる、寝る、行く、帰る、食べる				

◇ 1～15を順番通りに行うのではなく、学習や生活の必要に応じて指導計画を立て、習得状況に応じて計画を見直しましょう。

(4) 指導計画表の活用例

日本語指導担当
教員がない例

	1日目 10/19 (月)	2日目 10/20 (火)	3日目 10/21 (水)	4日目 10/22 (木)	5日目 10/23 (金)
授業前	全校朝礼	3-③ 〇〇専科	モジュール学習 単元3の③の意味	7-① 〇〇専科	7-③ 〇〇専科
1校時	1 教務主任	日本語初期指導 ぐんぐんプログラムの単元1と いう意味	4 教頭	◇算数 算数テスト	担任外の教員 文字の復習
2校時	2 担任	3-①②と文字指導 B教諭	＜モジュール学習例＞ 二つの単元から一部分 を抜き出して組み合わせ た例		7-②と13-① 教頭
3校時	文字指導 A教諭	◇総合 文字の復習	外国語	6 教頭	体育
4校時	体育	◇国語 教頭が学校案内	文字指導 教務主任	文字指導 教務主任	文字指導 教務主任
給食		教務主任			
5校時	学活	体育	音楽	図工	8 B教諭
6校時		理科	◇総合 文字の復習	図工 ・在籍学級で学習を行う 場合の内容	理科
備考		担任午後出張			

- ・太字で書かれた所が、「取り出し」指導の時間
- ・他は在籍学級での時間

- ・一緒に学習できる内容であれば在籍学級での授業に参加し、学習します。
- ・なるべく早く、在籍学級での授業に参加できるように日本語指導を進めましょう。

○日本語指導担当教員（外国人児童生徒等教育担当）が中心となって担任と連携し、管理職、教務主任、担任外の教員など、校内で指導する担当教員を決めて指導体制をつくりましょう。（指導計画表は本書P74）。

(5) 指導案

1 挨拶・自己紹介をしよう

指導者 ()

学 習 活 動	時間	・留意点 ○教材例
<p><input type="checkbox"/> ①挨拶をする</p> <p>T：おはようございます。(母語で)おはよう。 S：(母語で)おはよう。 T：(Sの顔を見ながら)おはようございます。 (Sの方へ手の平を上にして差し伸べ、あなたも言っ てという気持ちを伝える) S：おはようございます。 T：(笑顔で元気よく)おはようございます。 ・右のテキスト等を使う。 T：(イラストを指さしながら)ありがとう。 (Sの方へ手を差し出し)はい。 S：ありがとう。 ・Tがイラストを指さし、Sが言うように手を差し出す。 他の言葉も同様に進める。</p> <p>例 <input type="checkbox"/>「おはようございます」<input type="checkbox"/>「こんにちは」 <input type="checkbox"/>「ありがとう」<input type="checkbox"/>「さようなら」<input type="checkbox"/>「こんばんは」</p>	13分	<ul style="list-style-type: none"> 母語の挨拶は事前に調べておく。 物を取ってもらったら、「ありがとう」を言うなどと、場面設定して会話をする。 <p>○挨拶のイラストや絵カード</p> <p>○「みえこさんのにほんご」P9</p> <p>○「こどもの日本語ライブラリ」→基本検索→教材→JYL冊子教材のダウンロードはこちら→会話練習帳</p>
<p><input type="checkbox"/> ②自分の名前を言う</p> <ul style="list-style-type: none"> Tが自分の名札を指さしながら「わたしは○です」と名前を言う。 TがSの側に立って「わたしは(カルロス)です」とSの名前を言い、Sは復唱する。 その後の生活場面で、覚えられるようにする。 	5分	<p>○「みえこさんのにほんご」P13</p> <ul style="list-style-type: none"> 教室内に別の児童生徒がいれば、その児童生徒を相手に会話することもできる。
<p><input type="checkbox"/> ③自分の名前を見て分かる</p> <ul style="list-style-type: none"> 名前のカードを見せ、Tが読む。 1文字ずつTの後について読む。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>[活動例]</p> <ul style="list-style-type: none"> 名前カードを上下逆にしてSの前に置き、違いに気付き、正しい位置に戻す。 文字と音が一致するように、1文字ずつのカードをばらばらに置き、並べ替える。 </div>	10分	<p>○ひらがなで名前を書いたカード、横書きと縦書き2種類(4×15cm程度)</p> <p>例 かるろす</p> <p>○1文字ずつのカード(4×4cm程度)</p> <p>かるろす</p>
<p><input type="checkbox"/> ④自分の名前を書く</p> <ul style="list-style-type: none"> Tは書き順を示す。まず指で書く。次になぞり書きをして形をつかめるようにする。 練習を宿題とする。 <p>○低学年の場合は、書けるようになるまで時間がかかる場合が多いので、書くことは後にしてもよい。</p>	15分	<p>○名前の練習用紙(ノート可)</p> <ul style="list-style-type: none"> なぞり書きをするために、薄く名前を書いておく。 宿題の意味を伝えることが難しい場合は、母語支援員等がいる時に説明してもらう。
<p>本時の振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> 挨拶のイラストを見て、言葉を言う。 「ありがとう」「さようなら」を言い合う。 	2分	<p>○本時で使用した挨拶のイラスト等</p>

メモ

日本語初期指導
ぐんぐんプログラム

担任

2 学校生活をスタートしよう 指導者 ()

学 習 活 動	時間	・留意点 ○教材例
<input type="checkbox"/> ①挨拶をする「よろしくお願いします」ほか前時の復習をする。「おはよう」「わたしは～です」 T：私は〇〇先生です。よろしくおねがいします。 S：わたしはカルロスです。よろ？ T：よろしく。 S：よろしく。 T：おねがいします。 S：おねがいします。 T：よろしくおねがいします（ゆっくりと）。 S：よろしくおねがいします。 T：私は〇〇先生です。よろしくおねがいします。 S：わたしはカルロスです。よろしくおねがいします。 T：（喜びの表情で）よろしくおねがいします！ ・イラストで挨拶表現を知る。	10分	○「こどもの日本語ライブラリ」→基本検索→教材→JYL 冊子教材のダウンロードはこちら→会話練習帳 ・ぶつかったら「ごめんなさい」を言うなどと場面設定をして会話をする。 例 <input type="checkbox"/> 「ごめんなさい」 <input type="checkbox"/> 「失礼します」 <input type="checkbox"/> 「失礼しました」
<input type="checkbox"/> ②「いい」「だめ」を言う T：（右のテキスト等を見せ、だめなイラストを指さしながら、困った表情で）だめ。 S：だめ。 T：（よいイラストを指さしながら、微笑んで）いい。 S：いい。 T：（イラストを指さし）いい？だめ？ S：いい（又は だめ）。（ほかのイラストも同様） T：よくできました！（喜びの表情で拍手をする）	10分	○『日本語学級1』P2～5 ○「こどもの日本語ライブラリ」→基本検索→教材→JYL 冊子教材のダウンロードはこちら→会話練習帳 ・○、×の手持ち札を用意しておいて活用することもできる。（本書P30）
<input type="checkbox"/> ③「トイレ(水)いいですか」を言う ・授業中トイレに行こうとするイラストを見て、「いい？だめ？」と問いかけ、だめなことを知る。 ・「トイレに行っていていいですか」を言う。実態によっては「先生、トイレ、いいですか」を言う。 ・「水」も同様に行うが、授業中は「水いいですか」を言っても、「（授業中なので）だめ」と伝える。	10分	○『日本語学級1』P5 ○「こどもの日本語ライブラリ」会話練習帳 ・トイレの使い方は、初めて登校した日に行く。イラスト（下欄※）や、実際にトイレに行つてジェスチャー等で説明してもよい。
<input type="checkbox"/> ④「給食」「掃除」について知る 本書P45 ・給食・掃除の活動に参加する前に学習するとよい。 ・給食・掃除の活動場面のイラスト（実際の写真）を見る。給食・掃除に関連した言い方を知る。 例 <input type="checkbox"/> はし <input type="checkbox"/> おぼん <input type="checkbox"/> ほうき <input type="checkbox"/> ぞうきん <input type="checkbox"/> いただきます <input type="checkbox"/> ごちそうさま	10分	○豊橋市教育委員会「外国人児童生徒教育資料」→初期適応指導教材 ポルトガル語・タガログ語 ○掃除用具の実物
本時の振り返り ・本時で学習した語彙や表現を復習する（イラストを見て、言葉言う。「いいですか」のやりとりをする）。	5分	・学校で共通の挨拶が決まっていれば、それを使って終わりの挨拶を言う。

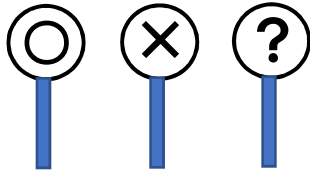
※ ひと目でわかる！教室で使うみんなのことば（文研出版）掲示用素材ダウンロード「トイレの使い方」
<https://www.shinko-keirin.co.jp/bunken/minna/>

メモ

担任

3 数を言おう

指導者 ()

学 習 活 動	時間	・留意点 ○教材例
前時の復習 ・前時に使ったイラストを見せたり、Tが実際に紙を床に捨てたりして、「いい?だめ?」と問いかける。	5分	・授業開始の挨拶をTが言う。
<input type="checkbox"/> ①1から10の言い方が分かる ・低学年の場合は、具体物を数えることから始める。 ・数カードを1～10まで並べる。 T: いち、に、さん、よん、ご、ろく、なな、はち、きゅう、じゅう (と指さしながら読む)。 ・1から順に、一つずつTの後について言う。 ・数カード1～5までなど限定して並べたり、3から並べたりしていろいろなやり方で読む。 ・早く覚えられる場合は、10から逆に言う、カードをばらばらにして言うなどの活動をする。 ・カルタのように、教師が言った数カードを取るゲームをすることもできる。	15分	・国により数字の書き方が違ったり、その国独自の数字を使っていたりすることに注意する。 ○数カード (算数セット) ○小学校1年生の算数プリントを使ってもよい。 ○「ぷりんときっず」→算数プリント: 幼児～1年生→数字の練習 ・1回で全て覚えるのではなくこの後も繰り返し学習して覚えるようにする。
<input type="checkbox"/> ②「わたしは〇歳です」を言う <input type="checkbox"/> 「はい」「いいえ」で答える ・右のテキストを示し、「わたしは～歳です」の言い方を知る。 T: あなたはルイスさんですか (「?札」を見せる)。 S: (おかしいなという表情) T: (×の札を上げながら) いいえ。 あなたはカルロスさんですか。 S: (うなずく) T: (○の札を上げて) はい。 ・Sに札を渡し、年齢を尋ねて「はい」「いいえ」の言い方に慣れるようにする。	13分	○「みえこさんのほんご」P14～17 ・○、×の手持ち札と同様に「?札」も用意しておいて活用することもできる。S用とT用の2セットあるとよい。 
<input type="checkbox"/> ③「ある」「ない」を言う ・Tがおはじきを一方の手の平に置き「ある」と言いながら見せ、もう一方の手の平を見せ「ない」と言う。 ・Tが後ろ手でおはじきをどちらかの手に隠し、「ある?ない?」と問いかけて当てるゲームをする。 ・おはじきをSに渡し、Sが隠す側になり、「ある?ない?」と問いかけ、Tが答える。 ・鉛筆、消しゴムの実物を見せながら、「鉛筆、ある?」等の会話をする。	10分	○『日本語学級1』P14～17 ○おはじきや消しゴムなど手に隠せる物 <input type="checkbox"/> 鉛筆 <input type="checkbox"/> 消しゴム
本時の振り返り ・本時で学習した語彙や表現を復習する (イラストを見て、言葉を言う、年齢を言うなど)。	2分	○本時で使用した数カードやイラストなど
メモ		

日本語初期指導
ぐんぐんプログラム

4 教室の物を知ろう

指導者 ()

学 習 活 動	時間	・留意点 ○教材例
前時の復習 ・手におはじきを隠し、「ある？ない？」と聞く。 ・「鉛筆ある？」「消しゴムある？」と聞く。 ・鉛筆等の数を数える。	5分	・授業開始の挨拶は、徐々に本人が言うようにする。
<input type="checkbox"/> ①身の回りの物の名前が分かる T：(鉛筆を持ち) 鉛筆？消しゴム？ S：鉛筆。 T：そうです(消しゴムを持ち)。何ですか？ S：消しゴム。 ・本を見て「ほん」、ノートを見て「のおと」と知る。 ・Tの後についてSが復唱する。 ・続けて、「机」「椅子」などの名前を知る。 ・物を指さしたり、絵カードを見せたりして、何度も言うことで物の名前を少しずつ覚えられるようにする。 【活動例】 ・絵カードでカルタ取りをする。 ・本や鉛筆の一部分だけを見せて「何ですか」に答える。 ・既習の「ある」を使い、「～ある？」に答える。	15分	○文房具等の実物 ○絵カード(英語科で使うものでも可) ○「ちびむすドリル」→英語→英語絵カード ○「みえこさんのにほんご」 P 20～24 例 <input type="checkbox"/> 机 <input type="checkbox"/> 椅子 <input type="checkbox"/> 黒板 <input type="checkbox"/> 筆箱 <input type="checkbox"/> ドア <input type="checkbox"/> 窓 <input type="checkbox"/> 本 <input type="checkbox"/> ノート <input type="checkbox"/> 時計
<input type="checkbox"/> ②「何ですか」と質問する ・Tが「何ですか」に対して、「～です」と言い方を示す。 T：何ですか。 S：消しゴムです。 ・答えられなかったらTが答えを言う。テンポよく「何ですか」「～です」とたくさん答えることで、質問と答えの言い方に慣れるようにする。 ・次に立場を交換してSが質問する。 ・クイズで「何ですか」「～です」の会話をする。	13分	・「何ですか」のときに、？札を示し、合っていたら○札を上げるのもよい。？札をSに渡すことで、立場が入れ替わって質問する側だと示すこともできる。 ・物の上に布をかぶせ、触って何か答えるクイズ、シルエットを描いた絵を見て答えるクイズなどをして楽しい。
<input type="checkbox"/> ③「分かる」「分からない」を言う ・Tは、物や既習の文字を見せSに「何ですか」と問いかける。Sが言えたらTが「分かる！」と笑顔で言い、言えなかったら「分からない」と残念そうに言うことで意味を理解できるようにする。その後、実物や絵カードを使って会話をする。 ・Sが「分からない。何ですか」と言ったら名前を教え、質問する方法であることを理解できるようにする。	10分	○『日本語学級1』 P 48、49を使い、「分かる」「分からない」の意味を理解することもできる。 ・Tから質問し、答え方に慣れたら、立場を交換してSが質問する。
本時の振り返り ・本時で学習した語彙や表現を復習する(イラストを見て言葉を言う、「何ですか」の会話をするなど)。	2分	○本時で使用した文房具や絵カードなど
メモ		

担任

5 身近な人を遊びに誘おう 指導者 ()

学 習 活 動	時間	・留意点 ○教材例
前時の復習 ・「何ですか」とTが問いかけ、Sが答える。 ・分からない時は「分からない」と言うことを復習し、名前を覚えていない物で会話をする。	5分	○前時で使用した文房具や絵カードなど
<input type="checkbox"/> ①身近な人の言い方が分かる ・写真や絵カード、ペープサート（紙人形）を使い、身近な人の言い方を知り、Tの後についてSが言う。 例 <input type="checkbox"/> 先生 <input type="checkbox"/> 友達 <input type="checkbox"/> 家族 <input type="checkbox"/> お父さん <input type="checkbox"/> お母さん <input type="checkbox"/> お兄さん <input type="checkbox"/> お姉さん <input type="checkbox"/> 弟 <input type="checkbox"/> 妹 <input type="checkbox"/> おじいさん <input type="checkbox"/> おばあさん ・次の「誰ですか」「～です」と合わせて、会話をする。	8分	○「みえこさんのにほんご」P 5 3 ○『にほんごをまなぼう』P 9 9 ○担任や友達の写真を撮っておき、使うもよい。 ○「こどもの日本語ライブラリ」→指導計画例→低・会話編 2 8「家族のこと」→絵カード「家族」でペープサートを作成するとよい。
<input type="checkbox"/> ②「誰ですか」と質問する T：誰ですか。 S：お父さんです。 ・この時、答えられなかったら教える。テンポよく、「誰ですか」「～です」とたくさん答えることで、質問と答えの言い方に慣れるようにする。 ・立場を交換し、Sが質問する。	15分	・身近な人の言い方と合わせて会話をする。 ※「こどもの日本語ライブラリ」→指導計画例をダウンロードする際は、「120 時間相当」の方を選んでください。
<input type="checkbox"/> ③「入れて」「～しよう」を言う ※地域や発達段階により「わたしもいい？」等、実際に使う言葉を取り上げる。 ・遊びに入りたそうにしている人物のイラストを見て、どんな会話をしているか、Tが演じる。 ・友達が遊んでいる時に「入れて」を言うことを知る。 ・実際に周りの児童生徒が休み時間によくしている遊びの名前を知る。 ・「～しよう」の言い方と答え方を知り、会話をする。 （例：「ドッジボールしよう」「いいよ」） ・裏返しにした遊びの絵カードを引いて、出てきた遊びで会話をする。TとSが立場を交換して会話をする。	15分	○『にほんごをまなぼう』P 2 8、2 9 ○「こどもの日本語ライブラリ」→指導計画例→低・会話編 2 8「家族のこと」 ・断りの言い方（「ごめん、だめ、勉強」等）を同時に教えられるとよいが、難しい場合は聞かせる程度とし別の機会に取り扱う。
本時の振り返り ・本時で学習した語彙や表現を復習する（イラストを見て言葉を言うなど）。	2分	○本時で使用した写真や絵カードなど

メモ

日本語初期指導
ぐんぐんプログラム

6 学校の場所を知ろう

指導者 ()

学 習 活 動	時間	・留意点 ○教材例
前時の復習 ・「誰ですか」とTが問いかけ、Sが答える。 ・分からない時は「分からない」と言うことを復習し、Sが質問してTが答える会話をする。	5分	○前時で使用した写真や絵カードなど
<input type="checkbox"/> ① 教室等の名前が分かる T：(学校の写真等を示し) ここは学校です。 がっこう (ゆっくり言う)。 S：がっこう。 T：(Sが分かりそうな場所を選んで写真を指し) いっしょに行きましょう (と手招きをして誘う)。 ・「ここは廊下です」や「ここは図書室です」など、その場所で名前を知る。その際、教室配置図があればSが印を付けるようにするのもよい。 ・担当の教職員がいる教室等では、挨拶をする。 S：こんにちは。わたしはカルロスです。	20分	・実際に学校を巡る。その際写真を撮っておくと復習のとき役立つ。 ○「こどもの日本語ライブラリ」→指導計画例→高・会話編10「学校めぐり」→絵カード『にほんごをまなぼう がっこう』 ○「みえこさんのにほんご」P32 ○『にほんごをまなぼう』P36、37
<input type="checkbox"/> ② 「どこですか」が分かる T：トイレはどこですか (指であちこち指し、探している様子を表す)。どこですか? (と何度も言い、キョロキョロと探すそぶりをする) S：(指を指す) T：そうですね。 廊下はどこですか (言葉が分からない様子だったら、写真等を見せる)。 S：(指を指す)	5分	・前の活動と合わせて行ってもよい。 ・「どこですか?」と分からない様子で、探すジェスチャーをオーバーにしながら、少し「どこ」を強めに言う。何度か「どこですか」を聞かせることで、意味を理解できるようにする。
<input type="checkbox"/> ③ 「ここ」「そこ」「あそこ」を言う ・鉛筆、ノートなどを教室内のあちこちに置き、Tが「～はどこですか」と聞く。Sが指を指したら、位置に合わせて、Tが「ここ」「そこ」「あそこ」と言う。 ・「ここ、そこ、あそこ」と指さしながら、リズムカルに言い、場所と言葉が一致するようにする。 ・既習の語を使って「～はどこですか」と問いかけ、答える会話をする。	10分	○『日本語学級1』P58、59 ・Sに近い所を「ここ」、少し離れた所を「そこ」、遠いところを「あそこ」と示す。
本時の振り返り ・本時で学習した語彙や表現を復習する (写真等を見て言葉を言う「どこですか」に答えるなど)。	5分	○本時で使用した写真や絵カードなど

メモ

7 勉強の言葉を知ろう 指導者 ()

学 習 活 動	時間	・留意点 ○教材例										
前時の復習 ・写真等を見て場所の名前を言う。「～はどこですか」とTが問いかけ、Sは「あそこ」等と答える。	5分	○前時で使用した写真や絵カードなど										
<input type="checkbox"/> ①指示の言葉が分かり、行動する T：鉛筆、ある？ S：ある。 T：出して（ジェスチャーで筆箱から出すよう促す）。ノートを出して。 S：（机から出す） T：しまって（ジェスチャーでしまうよう促す）。 ・Tは「立って」「座って」なども動作で表現し、Sは立つ、座る動きをする。「聞いて」は耳に手を当てる、「見て」は双眼鏡で見る様子を表すなどポーズを決めておき、Sはまねをする。 ・Tは言葉とジェスチャーで指示し、Sはジェスチャーをする。慣れてきたらTは言葉のみで指示する。次第に指示を速くしたり、Tが指示の言葉を言うが、違うジェスチャーをしたりする。	15分	○「こどもの日本語ライブラリ」→指導計画例→高・会話編4「私の／ぼくの持ち物」→絵カード「動詞」 ○『日本語学級1』 P 30、31 例 <table style="display: inline-table; vertical-align: middle;"> <tr> <td><input type="checkbox"/> 出して</td> <td><input type="checkbox"/> しまって</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> 立って</td> <td><input type="checkbox"/> 座って</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> 来て</td> <td><input type="checkbox"/> 見て</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> 聞いて</td> <td><input type="checkbox"/> 読んで</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> 書いて</td> <td></td> </tr> </table>	<input type="checkbox"/> 出して	<input type="checkbox"/> しまって	<input type="checkbox"/> 立って	<input type="checkbox"/> 座って	<input type="checkbox"/> 来て	<input type="checkbox"/> 見て	<input type="checkbox"/> 聞いて	<input type="checkbox"/> 読んで	<input type="checkbox"/> 書いて	
<input type="checkbox"/> 出して	<input type="checkbox"/> しまって											
<input type="checkbox"/> 立って	<input type="checkbox"/> 座って											
<input type="checkbox"/> 来て	<input type="checkbox"/> 見て											
<input type="checkbox"/> 聞いて	<input type="checkbox"/> 読んで											
<input type="checkbox"/> 書いて												
<input type="checkbox"/> ②「きょう・きのう・あした」を言う T：見て（と言って、カレンダーを見せる）。（母語で）きょう（カレンダーの日付を指す）。（続けて日本語で）きょう。 S：きょう。 ・同様にカレンダーの明日の日付を指して「あした」、昨日の日付を指して「きのう」と言う。 ・人差し指を出し、正面を指して「きょう」左を指して「きのう」右を指して「あした」と言う。これをテンポよく「きょう・きのう・あした」と繰り返し言う。	10分	○カレンダー（教室にある普通の物でよい） ○「ちびむすドリル」幼児知育→カレンダー ・事前に母語の「今日」を調べておく。										
<input type="checkbox"/> ③教科名が分かる ・教科カードや教科書を見て、「国語」「算数」などを知る。学年により、扱う教科名を選択しておく。 ・カードを見て教科名をTが言い、Sは復唱する。 ・時間表を見ながら「今日、体育ある？」「明日、国語ある？」「○時間目、何？」などと聞き、Sが答える。	10分	○『日本語学級1』 P 34～37 ○実際に使っている時間表にルビを振ったもの										
本時の振り返り ・本時で学習した語彙や表現を復習する（指示の言葉を聞いて動くなど）。	5分	・カレンダーは常時教室に掲示しておく。										

メモ

8 遊び方を聞こう

指導者 ()

学 習 活 動	時間	・留意点 ○教材例
前時の復習 ・教科カードを見て教科名を言う。「見て」「聞いて」などTが指示し、Sはそのジェスチャーや行動をする。	5分	○前時で使用した絵カード等
<input type="checkbox"/> ①「できる」「できない」を言う ・Tがお手玉を楽しそうにやる。Sがやりたそうな様子だったら、次のように言う。 T：い？ いれ？（「入れて」と言えるようにヒント） S：入れて。 T：どうぞ。 S：（お手玉をする） T：（Sができたなら、すごいという表情で）できる！（できなかつたら、残念そうに）できない。 ・けん玉でも同様に行い、「できる」「できない」の意味を理解できるようにする。 ・遊びやスポーツの絵等を見せ、「できる？できない？」とTが質問し、Sが答える。 ・イラストを使用して「ドッジボール、できる」、「なわとび、できない」などの会話をする。	15分	○お手玉やけん玉など室内でできる遊びの道具 ○「こどもの日本語ライブラリ」→指導計画例→低会話編21「休み時間」→絵カード「遊び」 ○『にほんごをまなぼう』P29 ・母国でよく行われているスポーツや遊びを調べておき「クリケット、できる？」等と話題にするのもよい。 ・その教室内に別の児童生徒がいれば、その児童生徒を相手に会話することもできる。
<input type="checkbox"/> ②「こう・そう・ちがう」が分かる T：（折り紙で紙飛行機や紙鉄砲を作っているところを見せ、できたら飛ばしたり、音を鳴らしたりする） S：入れて。 T：（折るジェスチャーをしながら）やる？ S：はい。 T：どうぞ（と言って折り紙を手渡す）。 見て、こう。 S：（まねをして折る） ・Tは教えながら「こう」と声を掛け、Sができたなら「そう！」違う時は「ちがう」と言い、Sがたくさん聞けるようにする。 ・『日本語学級1』を使い、吹き出しに合う言葉をSが答えることもできる。	20分	○折り紙 ○『日本語学級1』P32、33 ・「できる」の活動で聞いたSができる遊びを教えてもらい、Tからやり方を「こう？」と聞き、Sが「そう」「違う」と答える活動もできる。 ・既習の「見て」、「聞いて」なども活用する。
本時の振り返り ・本時で学習した語彙や表現を復習する。Tが「～できる？」と質問し、Sが答えるなど。	5分	○本時で使用したテキストやイラストなど
メモ		

9 食べ物・飲み物の名前を知ろう 指導者()

学 習 活 動	時間	・留意点 ○教材例
前時の復習 ・前時に使ったイラストを見せたり、TがSの「できる」「できない」ことを示したりして、「できる?」「できない?」と問いかけ、復習する。	5分	○前時で使用したテキストやイラストなど
<input type="checkbox"/> ①食べ物や飲み物の名前が分かる ・食べ物や飲み物の実物や模造品、イラストを順番に指さしながら物の名前を言い、Sが復唱する。 例 <input type="checkbox"/> バナナ <input type="checkbox"/> りんご <input type="checkbox"/> ぶどう <input type="checkbox"/> ごはん <input type="checkbox"/> トマト <input type="checkbox"/> きゅうり <input type="checkbox"/> にんじん <input type="checkbox"/> ピーマン <input type="checkbox"/> 牛乳 <input type="checkbox"/> ジュース <input type="checkbox"/> お茶 <input type="checkbox"/> 水	10分	○食べ物の模造品 ○「ちびむすドリル」幼児知育→文字・言葉・文カード→仲間の言葉 ・1回で全て覚えるのではなくこの後も繰り返し練習して覚えるようにする。
<input type="checkbox"/> ②「食べる」「食べない」を言う T：(バナナをむく動作をして、もぐもぐ食べるまねをして見せ) 食べる。 S：(Tのまねをしながら一緒に) 食べる。 T：(ふでばこをもち、口に運ぶが口を真一文字に閉じて困った顔をして) 食べない。 (次に鉛筆を見せ) 食べる? 食べない? S：食べない。 ・このようなやり取りをし、「食べる」「食べない」の言い方を知る。ほかの食べ物でも繰り返す。 T：(絵カード等を指さし) 食べる? 食べない? S：(自分の経験を振り返り) 食べる(食べない)。 ・慣れてきたらTとSの立場を交換する。	15分	○食べ物の模造品や絵カード(家庭科や英語科で使うものでも可) ○『日本語学級1』P78、79 ・発達段階においては「食べる」だけではなく、「バナナを食べます」と教えてもよい。
<input type="checkbox"/> ③「飲む」「飲まない」を言う ・「食べる」「食べない」と同様に「飲む」「飲まない」の言い方を知る。 T：(ペットボトルや絵カードを見せ、飲むまねをしながら) 飲む S：(Tの言い方をまねして) 飲む	7分	○ペットボトル等 ○飲み物の模造品や絵カード(家庭科や英語科で使うものでも可) ○『日本語学級1』P80、81
本時の振り返り ・本時で学習した語彙を復習する。 ・「食べる」「食べない」「飲む」「飲まない」のカードを混ぜ、復習する(イラストを見て、言葉を言うなど)。	8分	○本時で使用した絵カードやイラストなど

メモ

担任

10 好き・好きじゃないを伝えよう 指導者 ()

学 習 活 動	時間	・留意点 ○教材例
前時の復習 ・本時に関連して、前時で学習した食べ物・飲み物名、「食べる」「食べない」「飲む」「飲まない」を復習する。	5分	○前時で使用した絵カードやイラストなど
<input type="checkbox"/> ①「好き」「好きじゃない」が分かる T：(バナナの絵カードを指さし) バナナ、好き。 (笑顔で言う。いくつかの食べ物で同様に行く。好きな時は、たくさん頬張る仕草をしてもよい) T：(ピーマンの絵カードを指さし) ピーマン、好きじゃない(嫌そうな顔で言う)。 T：好き(笑顔で)。 S：好き(Tに続いて復唱する)。 T：好きじゃない(嫌そうに)。 S：好きじゃない(Tに続いて復唱する)。 T：(絵カードを順番に指さして聞いていく)。 これ、好き?好きじゃない? S：好き(好きじゃない)で答える。	10分	○食べ物の絵カード(家庭科や英語科で使うものでも可) ○「ちびむすドリル」幼児知育→文字・言葉・文カード→仲間の絵カード【仲間ことば】→果物・野菜 ・「好き」「好きじゃない」が表情で伝わるように、オーバーに表現し、ジェスチャーで言葉の意味を理解できるようにする。
<input type="checkbox"/> ②動物の名前が分かる ・イラストや絵カードなどを使い動物の名前を知る。 例 <input type="checkbox"/> 犬 <input type="checkbox"/> 猫 <input type="checkbox"/> 猿 <input type="checkbox"/> ねずみ <input type="checkbox"/> うさぎ <input type="checkbox"/> へび <input type="checkbox"/> かえる <input type="checkbox"/> 馬 <input type="checkbox"/> 牛 <input type="checkbox"/> 豚	10分	○「ちびむすドリル」幼児知育→文字・言葉・文カード→言葉の絵カード【仲間のことば】→動物
<input type="checkbox"/> ③「好きですか？」に答える T：犬が好きですか? S：好き。 T：犬が好き。 S：犬が好き。 T：へびが好きですか? S：好きじゃない。 T：へびが好きじゃない。 S：へびが好きじゃない。 ・このようなやり取りを他の動物でも行う。 ・次に、SがTにインタビューする。 S：(先生は)、猫が好きですか? T：好きじゃないです。	15分	○前の活動で使った絵カード等 ・その教室内に別の児童生徒がいれば、その児童生徒を相手にインタビューすることもできる。 ・この段階では「好き」「好きじゃない」と言えればよい。「嫌い」という言い方でもよい。
本時の振り返り ・本時で学習した語彙をゲームで復習する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> [活動例] まず、絵カードを5枚並べ日本語で言う。次に、教師が1枚カードを隠し、なくなったカードを当てる。 </div> ・「好きですか？」の会話を復習する。	5分	○本時で使用したイラストや絵カードなど
メモ		

11 月日・曜日を伝えよう

指導者 ()

学 習 活 動	時間	・留意点 ○教材例
前時の復習 ・絵カードを見て動物の名前を言う。 ・「～が好きですか」と問いかけ、「～が好き」「～が好きじゃない」の会話を復習する。	5分	○前時で使用したイラストや絵カードなど
<input type="checkbox"/> ①「今日は○月○日○曜日」を言う T：(カレンダーを見せ) きょう、どこ？ S：ここ (指を指す)。 T：今日は、(月のところを指し) ○月 (日付を指し) ○日です。 ・Sが○月○日と言えたらカレンダーを見て、1月～12月の言い方を知る。 ・日付は「いちにち」のように数に「にち」を付ける言い方で言う。「ついたち」「ふつか」の言い方はこの段階では取り上げない。 ・カレンダーを使い、曜日の言い方を知る。 ・リズムカルに「にち、げつ、か、すい、もく、きん、ど」と言う、曜日の歌を歌うなどして曜日の言い方に慣れるようにする。	15分	○カレンダー ○「みえこさんのにほんご」P 40～44 ○動画サイトで「日本語曜日の歌」、「Days Of The Week in Japanese」などで検索して利用するのもよい。 ・今後、毎日挨拶の後に「今日は○月○日○曜日です」を言うことで、徐々に覚えられるようにする。
<input type="checkbox"/> ②学習や生活に必要な物の名前が分かる ・第7時で学習した教科名を復習する。 ・第7時で扱えなかった教科名を知る。 ・第3時で学習した文房具等の名前を復習し、更に学習や学校生活に必要な物の名前を知る。 例 <input type="checkbox"/> ランドセル <input type="checkbox"/> かばん <input type="checkbox"/> 教科書 <input type="checkbox"/> 帽子 <input type="checkbox"/> 靴 <input type="checkbox"/> 上履き <input type="checkbox"/> 傘 <input type="checkbox"/> 水筒 <input type="checkbox"/> はさみ <input type="checkbox"/> のり	10分	○学用品等の実物や絵カード、教科カード ○「みえこさんのにほんご」P 23、24 ・絵カードを使って、カルタ取り等をする。
<input type="checkbox"/> ③「忘れた」「貸して」を言う T：(困っている表情のイラストを示し) 鉛筆、ある？ S：ない。 T：ないですね。(イラストの子供が言うように) 鉛筆を忘れました。 S：鉛筆、忘れました。 T：鉛筆を忘れました。 S：鉛筆を忘れました。 T：○さん、貸してください(手をSの方に差し出す)。 S：(鉛筆をTに渡す) T：ありがとう。 ・次にSが鉛筆を持っていない設定にして、同じやりとりを行う。ほかの持ち物でも会話をする。	10分	・実際に忘れ物をした時に、再度指導する。 ○「こどもの日本語ライブラリ」→指導計画例→低・会話編18「忘れ物」→絵カード『忘れ物』 ○『日本語学級1』P 74～77 ・貸す時に「どうぞ」貸してもらったら、「ありがとう(ございます)」を言うことも教える。
本時の振り返り ・本時で学習した語彙や表現を復習する。	5分	○本時で使用した絵カード等

メモ

担任

12 危険を知ろう

指導者 ()

学 習 活 動	時間	・留意点 ○教材例
前時の復習 ・日付・曜日の復習をする。 ・学用品等の名前を復習する。	5分	・今後は挨拶の後に「今日は○月○日○曜日です」を言うこととする。
<input type="checkbox"/> ①「いる」「いない」を言う T：(食べ物の絵カードを見せ) いる? いない? (鉛筆とフォークを出す) S：(フォークを指さす) T：いる (と言ってフォークを渡す)。 いない (と鉛筆を置く)。 ・このような場面を示し、会話をする (晴れの時、傘の絵、紙を切ろうとする時にのりの絵を見て会話するなど)。 ・『日本語学級1』のイラストを使うこともできる。	10分	○『日本語学級1』 P20～P23 ○文房具や学用品の実物や絵カード (英語科で使う物でも可) ○教科カード又は教科書 ・実際の生活に即した場面を想定して練習してもよい。 例 体育の絵カードを示し、「帽子、いる?」
<input type="checkbox"/> ②方向の言い方が分かる ・紙コップを伏せて横に3つ並べ、Tが指さして「右、左、真ん中」の言葉を言う。 ・SとTが同じ方向を向いて並んで立ち、言葉を言いながら指さして「上、下、右、左」を確認する。 ・紙コップの一つにおはじきを隠し、「どこですか」と問いかけ、「右」と答えるゲームをしたり、実際に動いたりしながら、方向の言い方に慣れるようにする。 例 <input type="checkbox"/> 右 <input type="checkbox"/> 左 <input type="checkbox"/> 真ん中 <input type="checkbox"/> 前 <input type="checkbox"/> 後ろ <input type="checkbox"/> 上 <input type="checkbox"/> 下	15分	○紙コップ3個、おはじき ○絵カード (英語科で使うものでも可) ○『日本語学級1』 P60～P63 ・フォークダンス「ジェンカ」で、「右、右、左、左、前、後ろ、トントントン」などと声を出しながら踊ると楽しく覚えられる。
<input type="checkbox"/> ③「あぶない」「止まれ」が分かる ・道路のイラストを示しTが歩く動作をしながら「歩くのは右?左?」と問いかける。 ・右であることを確認し、自転車についても聞く。 ・「止まれ」の標識を見て意味を知る。 T：(車道に飛び出すイラストを見せ) いい? だめ? S：だめ。 T：そうです (うなずく)。だめです。 (制止するジェスチャーをして) 危ないです。 ・「止まれ」で一時停止し、右左を見ることを知る。	10分	○道路に信号機、標識、自動車、自転車などがあるイラストや絵カード ○「こどもの日本語ライブラリ」→指導計画例→低・会話編33「交通安全」→絵カード『交通安全』 ・床にテープを貼って道路を作って、「止まれ」で止まり、右左を見るなど実際に動くのもよい。
本時の振り返り ・本時に学習した語彙や表現を復習する (「いる」「いない」のやりとりをする、方向を言うなど)。	5分	○本時で使用したイラストや絵カードなど

メモ

13 誰の持ち物が伝えよう

指導者()

学 習 活 動	時間	・留意点 ○教材例
前時の復習 ・「いる」「いない」方向の言い方を復習する。	5分	○前時で使用したイラストや絵カードなど
<input type="checkbox"/> ① 天気 の言い方が分かる T：今日は？（カレンダーを指す） S：今日は○月○日○曜日です。 ・言えなかったら、Tが言い、Sは復唱する。 T：（空を指し）天気は？（と言って何枚かの天気の絵カードを見せる） S：（カードを選ぶ） T：晴れです。 ・そのほかの天気の言い方を知る。 ・「今日は○月○日○曜日、天気は～です」と言えるよう何度か繰り返し言う。 例 <input type="checkbox"/> 晴れ <input type="checkbox"/> 曇り <input type="checkbox"/> 雨 <input type="checkbox"/> 雪	15分	○「ちびむすドリル」幼児知育→〔カレンダーワーク〕月・日付・曜日・天気カード （英語科で使う物でも可） ・今後、毎日挨拶の後に「今日は○月○日○曜日、天気は～です」を言うことで、徐々に覚えられるようにする。
<input type="checkbox"/> ② 「誰のですか」 が分かる <input type="checkbox"/> 「わたしのです」「○さんのです」 を言う ・袋（箱）から、TがSの消しゴムを取り出す。 T：（分からない素振りで）誰のですか（消しゴムを持って見せながら言う） S：（手を出して取ろうとするなどする） T：ああ、○さんの（やや「の」を強めに）わたしのです。 S：わたしのです。 T：どうぞ（別の消しゴムを取り出し、少し見せる）誰のですか。 S：せんせい。 T：先生の？（名前を見て）いいえ、○さんのです（別の消しゴムを取り出し）誰のですか ○さんの？○さんの？（とヒントを言う） S：○さんの。 T：正解！（拍手する） ・やり方を理解したら、全部の消しゴムを入れて誰の物が当てるゲームをする。 ・慣れてきたら、SとTの立場を交換して会話をする。	20分	○Sが知っている人の物（消しゴム等）を集めておく。中が見えない袋や箱を用意し、その中に入れておく。 ○『日本語学級1』P54～57 ○「みえこさんのにほんご」P25、26
本時の振り返り ・本時に学習した語彙や表現を復習する（「今日は○月○日○曜日天気は～です」等）。	5分	○本時で使用したカレンダーやカードなど
メモ		

担任

14 体調を伝えよう

指導者 ()

学 習 活 動	時間	・留意点 ○教材例
前時の復習 ・今日の天気について前時を思い出しながら会話を する。天気に関する語彙の復習をする。	5分	○前時で使用したカレンダー ーやカードなど
<input type="checkbox"/> ①体の部分の名前が分かる 例 <input type="checkbox"/> 頭 <input type="checkbox"/> 目 <input type="checkbox"/> 鼻 <input type="checkbox"/> 耳 <input type="checkbox"/> 口 <input type="checkbox"/> 歯 <input type="checkbox"/> 首 <input type="checkbox"/> 肩 <input type="checkbox"/> 手 <input type="checkbox"/> 指 <input type="checkbox"/> 胸 <input type="checkbox"/> 足 <input type="checkbox"/> 背中 <input type="checkbox"/> お腹 <input type="checkbox"/> おしり T：(頭を手で押さえながら) あたま。 S：(Tのまねをして) あたま。 T：(目を指さしながら) 目。 S：(Tのまねをして) 目。 ・同様に体の各部分を手で押さえながら復唱する。 T：これは？ S：お腹。 ・同様に繰り返す。	15分	○「ちびむすドリル」 幼児知 育→文字・言葉・文カード →仲間の言葉(体・顔・手) ・慣れてきたらランダムに体 の各部分を押さえ、スピー ドを上げると楽しい。 ・手遊び歌「頭・肩・膝・ポ ン」(♪「ロンドン橋」の 替え歌)をするのもよい。
<input type="checkbox"/> ②「大丈夫?」「痛い」 「気持ち悪い」「熱がある」を言う ・イラストで「痛い」の意味を理解できるようにする。 T：(自分の腹を痛そうに押さえながら) お腹が痛い。 S：(Tのまねをして復唱する) お腹が痛い。 ・体の各部分で同様に言う。 T：(頭が痛い様子のイラストを見せて、心配そうな表 情で) 大丈夫？ S：(Tの問いに答え、会話をする) 頭が痛い。 ・イラストで、元気な時は「大丈夫」ということを理解 できるようにする。 ・続いて「気持ち悪い」「熱がある」を同様に言う。 ・慣れてきたら絵カードを裏返しにして一枚選び、選ん だ絵の状態に合った会話を する。 T：(心配そうに) 大丈夫？ S：(元気に) 大丈夫。	15分	○『にほんごを まなぼう』 P 2 2、2 3、3 4、3 5 ○「こどもの日本語ライブラ リ」→指導計画例→低・会 話編 1 1「病気」、1 2「け が」→絵カード ・こどもの日本語ライブラ リには、「体の不調すごろ く」があるので、休み時間 や授業前に復習しながら 遊んでもよい。 例 <input type="checkbox"/> 頭が痛い <input type="checkbox"/> 目が痛い <input type="checkbox"/> 歯が痛い <input type="checkbox"/> 足が痛い <input type="checkbox"/> 手が痛い <input type="checkbox"/> お腹が痛い
<input type="checkbox"/> ③「(学校を) 休みます」が分かる ・イラストで、休む時は学校へ電話連絡することを理解 できるようにする。 T：(電話する動作で) ~です。(学校を) 休みます。 S：(Tのまねをして) ~です。(学校を) 休みます。	5分	○「こどもの日本語ライブラ リ」→指導計画例→低・会 話編 1 3「学校を休む」→ 絵カード『学校を休む』
本時の振り返り ・絵カード等で語彙を復習しながら「大丈夫?」と聞か れたら、「歯が痛いです」「気持ちが悪いです」など、 体の不調を訴える会話を する。	5分	○本時で使用したイラスト や絵カードなど

メモ

15 時刻を伝えよう

指導者（ ）

学 習 活 動	時間	・留意点 ○教材例
前時の復習 ・体の部分の名前、体調の伝え方を復習する。	5分	○前時に使用したイラストや絵カードなど
<input type="checkbox"/> ①「同じ」「違う」を言う ・トランプの2枚のクイーンを見せ、「同じ」と言い、クイーンとキングを見せる時に「違う」と言って、意味を理解できるようにする。 ・神経衰弱ゲームをする。最初は4～5組を裏返しにし、Tが2枚表にする。同じ時は「同じ」とうれしそうに言って自分で取る。違ったら「違う」と残念そうに言ってカードを返す。 ・Sにもやるように促す。 ・カードをめくる時には、「同じ」「違う」を言うルールとする。 ・カードの枚数はSの力に応じて調整し、何度か神経衰弱ゲームをする。	17分	○トランプ ・数字のカードは数字で「同じ」「違う」と表すこととする。赤と黒が混じると、混乱する場合があるので、ゲームのときはどちらかだけにする。発達段階により、数字では同じと感じない場合は、形だけに注目できるようなカードを用意するとよい。 ○『日本語学級1』 P 52、53
<input type="checkbox"/> ②「〇時」「〇時半」を言う ・数字の読み方を復習する。 ・時計を示し、「あれは何ですか」と質問し、「とけい」の言い方を確認する。 ・数を学習した時と言い方が違うものがあるので、はじめに4時、7時、9時以外の言い方を知る。次に4時、7時、9時の言い方を知る。 ・Tが「〇時半」を言い、Sが復唱する。 ・T「何時ですか」と質問した時の答え方を知り、模擬時計を使って会話をする。 ・「みえこさんのにほんご」P38のワークシートのような日常の動きと時計と一緒に描いてある絵を見る。 ・続いて「起きるのは何時ですか」と、時刻と動詞の関連を図る質問をする。 ・Tは動詞をやや強めに発音する。 ・時間があれば、動詞のみを復唱する。 例 <input type="checkbox"/> 起きる <input type="checkbox"/> 寝る <input type="checkbox"/> 行く <input type="checkbox"/> 帰る <input type="checkbox"/> 食べる <input type="checkbox"/> 始まる <input type="checkbox"/> 終わる	20分	・Sが時計を読む段階の場合に指導する。 ○模擬時計(算数セット) ○時計の読み方ワークシート(「ぷりんときっず」→算数プリント幼児～小学1年生→時計の読み方練習) ○「みえこさんのにほんご」P35～37 ○動詞カード ○「みえこさんのにほんご」P38 ○「ちびむすドリル」幼児知育→文字・言葉・文カード→文の練習→文カード ・ここでは、動詞を聞くだけで、今後動詞のみを取り上げた学習をする。
本時の振り返り ・本時に学習した「同じ」、「違う」などを復習する。	3分	○本時で使用した絵カードやトランプなど

メモ

(6) ひらがな指導例

児童生徒の年齢や、母国において文字の読み書きの学習経験を把握した上で指導をしましょう。また、本人の学習への目的意識や意欲などにより、文字の習得には個人差があることを認識しましょう。

文字を読めると言葉の習得が早い傾向があります。例えば絵カードを見て名前を覚える場合、裏にある文字を見て確認し、文字と共に覚えることができます。

指導の前に

□ ひらがなカードや練習プリントを用意する

<教材例> 「ちびむすドリル」 幼児知育→ひらがな練習プリント・カード
→ひらがな (50音) [フラッシュカード]

<https://happyilac.net/sk1808031402.html>

※「ちびむすドリル」や「ぷりんときっず」には各種練習プリントがあるので授業や宿題に活用できます。

□ 保護者に筆記具について説明する

- ・小学校で勧めているのは、Bや2Bなどの柔らかい鉛筆。
- ・書くことに慣れていない場合は、やや太めの鉛筆や三角鉛筆がよいでしょう。
- ・児童生徒が鉛筆でスムーズに線が書けないと、文字を書くことが嫌になることがあります。
- ・外国人児童生徒等の保護者の中には鉛筆を使う習慣がないことにより、どんな鉛筆を用意すればいいのかわからない場合があります。そこで、実物を見せるなどして詳しく説明し、購入してもらおうとよいでしょう（消しゴムも同様）。



ひらがなを読む指導

【小学校低学年・中学年】

- ・五十音順でなくともよいです。
- ・身近な事物の語彙（動物、果物などグループ化する）を絵カードで提示し、語彙と共に学習します。

【小学校高学年以上】

- ・五十音順の学習ができますが、語彙と共に学習するとよいです。
- ・絵カードも活用し、「『え』はえんぴつのえ」というように覚えると記憶や想起に効果的です。

○指導順

- ・一般的に、清音「あ～ん」→濁音「が～ぼ」→半濁音「ぱ～ぽ」→拗音「きゃ～ぴょ」の順に指導します。ただし、語彙と共に学習する時に「いちご」が言えたら「ご」と読むと教えるとよいでしょう。
- ・始めは絵カードと共に文字を読み、言えるようになったら文字のみのカードを読む練習をします。
- ・カードを読むだけでなく、カルタ取りや文字の一部を見て当てるゲームなどを通して楽しく学びましょう。

ひらがなを書く指導

【小学校低学年で編入学し、就学以前に教育を受けていない場合】

- ①鉛筆の持ち方から丁寧に指導しましょう。
- ②様々な線を書く練習をします。

<教材例> 「ぷりんときっず」就学前幼児トップ→なぞり書き練習

<https://print-kids.net/print/unpitsu/nazorigaki/>

- ③書く指導は、1画や2画の文字から学習しましょう。あ行なら「い」「う」から、か行なら「く」からなどです。

指導の手順

- 1 指書き（書いてある手本の上で指を滑らせて書くこと）
 - ・指導者が黒板に書く動きに合わせて、空中に書きます。
 - ・書き順に合わせて「いち」「に」と声を出し、一画が長い箇所などは「さーん」と長く伸ばして言います。<例>「あ」の3画目、「む」の2画目
- 2 なぞり書き（薄く書いてある文字をなぞって書くこと）
- 3 写し書き（手本を見ながら書くこと）

3 写し書き		2 なぞり書き	1 指書き
		あ	あ ひらがな
		あ	
		あ	
		あ	なまえ（ あ い う え お
		あ	

(7) 学級での指導例

<p>1日目 朝</p> <p>【可能ならば母語支援員等や担任以外の教職員もつく】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・登校してきたら笑顔で迎えます。靴箱、机やロッカーの使い方をそれぞれの場所に行って教えます。 ※言葉が分からなくても、ジェスチャーや図を用いて伝えるようにします。小学校低学年が使っている掲示物等を利用することもできます。 ・保護者と一緒に登校してきたら、帰り方を確認しておきます（迎えか一人で帰るのかなどです。近くに住んでいる児童生徒と一緒に帰るよう指示しておく場合も考えられます）。 <p>○事前に母語での挨拶を練習しておき、学級全員で挨拶を交わします。</p>
<p>1日目 給食や 掃除</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・給食の準備の仕方や「いただきます」のルールなどは、外国人児童生徒等には分かりません。母語支援員等がいれば説明してもらいます。外国人児童生徒等に学級の児童生徒の様子を見せます。 ・初めて見る料理で困惑して外国人児童生徒等は食べようとしなない場合があるので、周りの児童生徒にも、その旨を説明しておきます。 ・初めて学校で掃除をすることを知らぬ外国人児童生徒等もいるので、1日目は、掃除の様子を見せるだけでもよいでしょう。 <p>○日本語で話しかけると徐々に日本語を覚えることを学級の児童生徒に知らせておき、給食や掃除のときにも一緒に活動するように促します。</p>
<p>休み時間</p>	<p>○事前に外国人児童生徒等の母語での「遊ぼう」等の言葉を調べておき、学級で練習しておくのもよいでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受入れのときの面接で好きなスポーツ等を聞いておきます。それを学級の児童生徒に知らせておきます。例えば好きなスポーツがサッカーならば、ボールを見せるとサッカーをやろうという気持ちが外国人児童生徒等に伝わり、交流のきっかけを作れます。
<p>1日目 帰り</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・帰りの準備のとき、持ち帰る物と置いておく物の区別を知らないなので、教員がついて一緒に行くようにします。 ・初めての日本の学校で、外国人児童生徒等はとても疲れています。「がんばったね」という気持ちを込めて笑顔で送り出しましょう。
<p>2日目 以降</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・登校時の物の整理の仕方等、生活面の指導を継続します。最初の頃は教員が一緒に行い、徐々に周りの児童生徒の様子を見せて、自分でやるよう促します。 <p>○教員がいつもついていると、周りの児童生徒が関わらなくなってしまうので、学級の児童生徒に「説明してくれる」等と声をかけ、外国人児童生徒等との関わりを促します。</p> <p>○言葉以外のコミュニケーションを学級で考えたり、上手な関わり方をしている児童生徒の例を紹介したりして仲間づくりを支援します。本書P61</p>

○1日目 学級活動案（注：外国人児童生徒等を外国人児童と表記している）

学習活動	留意点
<p>①外国人児童の母語の挨拶をみんなでする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・司会者（学級委員等）として、外国人児童を再度紹介する。 ・出身国のこと、習慣の違いや宗教などのことも紹介する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○事前に学級活動で、外国人児童とのコミュニケーション方法を話し合う。 ・担任は、日本語で話しかけることで、外国人児童が日本語を覚えること、学級児童が話す日本語がお手本になることを説明しておく。
<p>②外国人児童が練習した自己紹介をする。</p> <p>「わたしは～です。（～からきました。）よろしくおねがいます。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国人児童の得意なこと、好きなことを学級児童に紹介する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○日本語指導担当教員等と連携し、事前に自己紹介を練習しておくといいが、最低限、名前が言えればよい。 ・練習時間を十分とれれば、出身国や好きなことを外国人児童が言う。
<p>③学級で企画した簡単なゲームをする。</p> <p>＜例＞</p> <p>〔集合ゲーム〕</p> <p>一人が手をたたき、その数と同じ人数のグループを作る。グループができたなら、そこで自己紹介をする。グループに入れなかった児童が、次に手をたたく。</p> <p>〔名刺交換ゲーム〕</p> <p>事前に自分の名刺を一人一枚（数は学級で決める）作っておく。外国人児童の分は、「取り出し」指導のときに作っておくか、担任が用意してもよい。全員がばらばらになり、出会った二人組で外国人児童の母語の挨拶をし、ジャンケンをする。勝った方が相手の名刺をもらえる。</p> <p>〔その他ゲーム〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジャンケン列車 ・椅子取りゲーム など 	<ul style="list-style-type: none"> ○言葉をあまり必要としないゲームを企画する。 ○児童が遊びを企画したり、準備をしたりすることで、外国人児童とコミュニケーションをとる方法を考えられるようにする。 ○児童のゲーム係がゲームのやり方を学級全体に説明する。 ○口頭での説明だけでなく、児童数人が前に出てゲームの動きをやるみる。 <p>*母語支援員等はいても、通訳は最小限にして見守る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国人児童が、通訳を介さなくとも学級児童と関われる体験を多くさせるため。学級児童も外国人児童に伝える方法を学ぶ機会となる。
<p>④外国人児童と一緒に遊びたいことを話し合う。</p> <p>＜児童の発言例＞</p> <p>「ドッジボールのやり方を説明して、みんなでやろう。」</p> <p>「外国人児童はサッカーが好きと言っていたから、サッカーをやろう。」</p> <p>「図書室へ案内しよう。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○本時の前に学級で話し合っておくのもよい。 ○休み時間の直前に本時のような学級活動を行うと、そのまま遊びに移ることができる。

7 日本語指導・学習指導

(1) 「特別の教育課程」による日本語指導

平成26年4月1日から、児童又は生徒のうち日本語を理解し、使用する能力に応じた特別の指導を行う必要があるものを教育する場合には、特別の教育課程によることができることとなりました。以下は、「学校教育法施行規則の一部改正する省令等の施行について」(文部科学省通知)平成26年1月14日より要約しました。

指導内容

- ・日本語を用いて学校生活を営むとともに、学習に取り組むことができるようにすることを目的とする指導です。
- ・日本語の能力に応じた特別の指導とは、日本語の能力を高める指導とともに、日本語の能力に応じて行う各教科等の指導も含まれます。
- ・学習到達度に応じた適切な内容とします。

授業時数

- ・年間10単位時間から280単位時間までを標準とします(実態を踏まえ、弾力的な運用が可能)。

指導の形態及び場所

- ・原則として、在籍学校における「取り出し」指導です(本書P20)。
- ・複数校への巡回による指導、他の学校における指導を受けることもできます。

指導者

- ・日本語指導担当教員は、教員免許を有する教員です。
- ・指導を補助する者は、日本語指導担当教員が作成した指導計画に基づき、日本語指導や教科指導等の補助や児童生徒の母語による支援を行います。

指導計画の作成及び学習評価

- ・個々の児童生徒の日本語の能力や学校生活への適応状況を含めた生活・学習の状況、学習への姿勢・態度等の多面的な把握に基づき、指導の目標及び指導内容を明確にした指導計画を作成し、学習評価を行います(本書P50～52)。

◆詳細は、文部科学省Webページ

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/003/1341903.htm

「学校教育法施行規則の一部を改正する省令等の施行について(通知)」Q & Aより
一部抜粋 https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/003/1341903.htm

◇日本語を用いて学校生活を営むことができるようにすることを目的とした日本語指導とは、具体的にどのようなことが考えられるでしょうか。

日本の学校生活や社会生活について必要な知識を学び、日本語を使って行動する力を身に付けることが主な目的となります。健康・安全・関係づくりなどの観点や、教科や文房具、教室の備品名など、学校生活で日常生活に使う言葉（サバイバル日本語と呼ばれることがあります。）などについて、その児童生徒にとって緊急性の高いものから順に指導を行うことを目的とするものです。

◇児童生徒が「日本語を用いて学習に取り組む」ことができるようにすることを目的とした日本語指導とは、具体的にどのようなことが考えられるでしょうか。

日本語で行われる在籍学級での授業に参加し、周囲の支援や様々な関わりを通して支障なく学習に取り組むことができることが主な目的となります。

基礎的な力としての発音、文字・表記、語彙、文型に関する指導や、例えば「書く」ことに焦点を絞って段階的な指導を行うなど、外国人児童生徒等の日本語の習得状況や、学習の進捗状況に合わせて指導計画を立てることが必要です。文部科学省は、日本語を学ぶことと教科内容を学ぶことを一つのカリキュラムとして構成するという考え方により「JSLカリキュラム」（JSL：Japanese as a Second Language）を開発しています。「特別の教育課程」による日本語指導は、在籍学級での学習に支障なく取り組むことができることを目的とするため、学習内容は在籍学級の担任や教科担当教員と相談しながら進めることが求められます。

また、在籍学級で受けた学習で理解が不十分な部分の補習や、在籍学級の学習内容に先駆け関連する既習内容の復習を行うことなども有効です。

◇日本語指導を受けている児童生徒の指導要録にはどの欄にどのような内容を記述すればよいのでしょうか。

「特別の教育課程」による日本語指導を受けた児童生徒については、「指導に関する記録」の「総合所見及び指導上参考となる諸事項」の欄に、「特別の教育課程」による指導を受けた授業時数、指導期間、指導の内容及び結果等を記入してください。

また、「特別の教育課程」による指導を受けていなくても日本語指導が必要な児童生徒については、その後の指導に役立たせる観点から必要に応じて教科書の漢字にふりがなを付ける、単語の切れ目に斜線を引くなど、効果があったと考えられる指導方法や配慮事項を記載してください。

(2) 指導計画の作成

「特別の教育課程」を編成する場合、以下の2種類の指導計画を作成します。

① 「特別の教育課程編成・実施計画」

学校設置者である教育委員会へ提出し、年度末には、「特別の教育課程編成・実施報告書」を提出します。

<出典>文部科学省 学校設置者に提出する指導計画・報告 記入例

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/003/1341903.htm

特別の教育課程編成・実施計画（参考様式）

この様式例にこだわることなく、従来の名簿等を適宜改良して活用することも考えられる。

学校名	〇〇市立〇〇小学校
学校長	〇〇 〇〇
提出日	令和〇年 〇月 〇〇日

指導内容：①サバイバル日本語、②日本語基礎、③技能別日本語、④日本語と教科の統合学習、⑤教科の補習

No.	学年	児童生徒氏名	指導内容						指導時間	指導形態		指導者								
			学習段階	①	②	③	④	⑤		その他	指導期間									
1	小1	〇〇 〇〇 〇〇	初期の前期	○	○				週4時間	グループ指導	〇〇〇〇									
										R2. 4～										
2	小2	〇〇〇 〇〇	初期の後期		○		○		週4時間	週2 グループ指導 週2 個別指導	〇〇〇〇									
										H31. 4～										
3	小2	〇〇 〇〇 〇〇	教科につながる学習			○	○		週2時間	個別指導	〇〇〇〇									
										H31. 4～R1. 12										
4			年度途中で「特別の教育課程」による指導を終了した場合は、指導期間を記入しておく。																	
5	小4	〇〇 〇〇	初期の前期	○	○	○			週6時間	〇〇小学校へ通級 (週4 グループ学習 週2 個別指導)	〇〇〇〇 (〇〇小教諭)									
										R2. 10～										
6			編入など、年度途中で「特別の教育課程」による指導を開始した場合は、順次追記しておく。																	
7	小6	〇〇〇 〇〇 〇〇	教科につながる学習				○	○	週2時間	巡回指導 (週2 グループ学習)	〇〇〇〇 (巡回指導)									
										R3. 1～										
8			日本語指導の内容を「初期の前期」「初期の後期」「教科につながる学習」の3つの段階で大きく分けるなどが考えられる。																	
9												①～⑤は「外国人児童生徒受入れの手引き」(文部科学省)P26～を参考にしている。おおまかな内容でよい。複数の例を登録しておき、選択できるようにすることも考えられる。								
10																				
11			「入り込み」指導等を行っている場合に、「その他」欄に参考に記載することも考えられる。																	
12																				
13			本計画書を教育委員会に提出した後も、「特別の教育課程」による指導の終了時や、転編入児童生徒に対して新しく「特別の教育課程」による指導を始めるとき、又は学習評価などを踏まえて指導計画を変更した際など、各学校において適宜追加・修正を行い、年度の終わりに報告一覧として、教育委員会に提出すること。																	

②「個別の指導計画」（様式1、様式2）

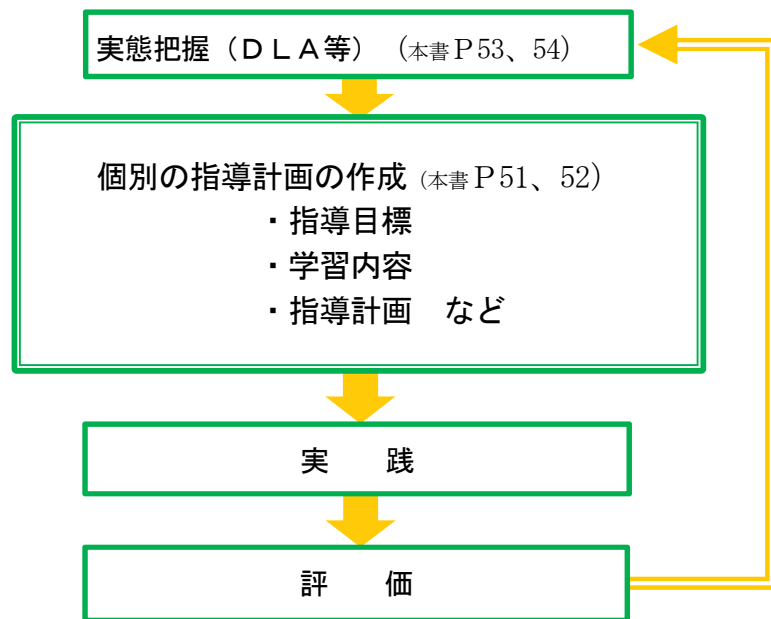
個々の児童生徒について、日本語の能力や学校生活への適応状況を含めた生活・学習の状況、学習への姿勢・態度などの多面的な把握に基づき「個別の指導計画」を作成しましょう。

<多面的な把握の例>

- ・日本語の力
- <例>「外国人児童生徒のためのJSL対話型アセスメントDLA」等(本書P53)
- ・来日年齢と滞日期間
 - ・背景の言語文化（漢字圏かどうか等）
 - ・発達段階（年齢）
 - ・母語の力（年齢相当か、読み書きはできるか）
 - ・来日前の教科学習経験（国や地域により教育課程が違うので注意する）
 - ・基礎的学力（既習の教科内容についてどの程度理解力、知識があるか）
 - ・在籍している学級での学習参加の状況（一斉指導における理解の度合い、参加の様子は、取り出し指導の中で個別指導している状況とは異なる）
 - ・家庭の学習環境（家庭内の言語使用状況、保護者の言語能力、教科へのサポートの可能性）
 - ・進路希望

これらは、本人と学習したり、保護者と面談を重ねたりする中で徐々に得られる内容もあります。本人や保護者との信頼関係を築きながら把握し、「個別の指導計画」に記載するとともに、指導に生かしましょう。

そして、「個別の指導計画」は、外国人児童生徒等の日本語の習得状況を踏まえ、定期的に見直ししながら、指導を行いましょ。



様式 1

(学校内で作成する指導計画 様式例)

個別の指導計画(参考様式)

様式1(児童生徒に関する記録)

	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
在籍					H29	H30	R1	R2	
フリガナ 児童生徒氏名 (通称)	(男・女)					国籍等	ブラジル		
フリガナ 保護者氏名 (通称)						続柄	父		
生年月日	○年 ○月 ○日					出生地	ブラジル		
入国年月日	平成29年 3月25日			学校受入年月日		平成29年 4月 1日			
家族構成	祖父、父、母、姉、本人、弟								
家庭内使用言語	祖父・弟は日本語、父・母・姉とはポルトガル語								
生育歴・学習歴	ブラジルで、小学校に就学。 平成29年度 前年度末に来日。小学校5年生に編入。 日本語指導を週に7時間。 令和元年度 中学校に入学。 日本語指導を週に4時間。 令和2年度 「特別の教育課程」による日本を指導を週に4時間。								
学校内外での支援状況	毎週土曜日2時間 ○○国際交流協会開催の日本語教室								
進路希望	進学(○○高校○○学科)								
その他	発達障害の診断等 宗教上の配慮事項 等								

<出典>文部科学省 個別の指導計画(児童生徒に関する記録)記入例(一部修正)

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/003/1341903.htm

様式2

(学校内で作成する指導計画 記入例)

個別の指導計画 (参考様式)

様式2 (指導に関する記録)

フリガナ 児童名	()年	作成者	作成日 更新日	年 月 日 年 月 日		
日本語力	<p>・基本的な文型で構成された2~3文の会話を、ゆっくりとした速さなら聞いて理解できる。 ・理解できる言葉であっても、自分で話したり書いたりできる内容は限定的である。</p> <p>※児童生徒の日本語の力を、「話す、読む、書く、聴く」の4技能、あるいは①会話力(主として単語での発話か、単語を幾つくらいつなげて話しているか、どの程度の文が聞き取れているかなど。)②文字の習得度(ひらがな・カタカナ・漢字が何年生程度かなど)③読解作文の力(単文レベルか、重文・複文まで可能か、それらで構成された文章はどのような内容まで理解できるかなど)などの視点から記入する。</p>					
指導目標	<p>【初期の後期段階】</p> <p>①日本語で学校生活に参加するために必要な文字や文など、基礎的な日本語の力を育てる。 ②日本の学校生活や社会生活において、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。</p> <p>※一例として、「日本語の能力に応じた指導プログラム例」(※注)の「大目標」等が考えられる。</p>					
指導計画						
「特別の教育課程」による日本語指導	月	4	5	6	7	※一例として、「日本語の能力に応じた指導プログラム例」(※注)の「日本語の学習段階」等が考えられる。
	段階	初期の後期段階				
	日本語学習内容	①日本語の基礎学習				②技能別の日本語学習
		②日本語と教科の統合学習				③日本語と教科の統合学習
		※8月に計画を見直して記載する。			④教科の補習	※「外国人児童生徒の受入れの手引き」(文部科学省)p26~の「日本語指導のプログラム」等が考えられる。
指導計画	<p>【前期】</p> <p>①基本的な文型や語彙を使って会話ができるようにする。 ②平易な文で構成された、ある程度まとまった内容の文章を読んで理解できるようにする。 ③教科書を簡単な日本語に書き換えたもので在籍学級の授業の予習を中心に行う。</p> <p>【後期】</p> <p>③算数・理科はなるべく教科書を使い、学習活動に必要な重要表現を取り上げて指導する。 ④未習事項が多いので、在籍学級の学習に関係する内容から補う。</p> <p>※上の表で示した「日本語学習内容」の内容別に記入することが考えられる。 各教育委員会等で独自の「学習段階」「学習内容」を設定している場合は、それに基づいて記入する。 ※一例として、「学習目標例」(※注)を参考に計画すること等が考えられる。</p>					
指導者	○○巡回指導員					
指導場所	○○ルーム		指導時数	週4時間		
上記以外の指導等	<p>社会科は週2時間 在籍学級でIT指導。 毎週土曜日、国際交流協会が開催する日本語教室へ参加。</p>					
指導内容・方法に関する評価及び学習状況の評価等	<p>・学習意欲はあるが、教科に関する未習事項が多く、授業内容に対応しきれていない。 ・関心のある分野であれば、ある程度まとまった文章を理解できるようになった。 ・表現することに苦手意識があるようなので、発言や作文がしやすいような支援方法を検討する必要がある。</p> <p>※どのような指導をした結果、どのような習得結果となったかについて記入する。 今後に向けて、どのような指導をしていくとよいかなどの参考になることを記入しておくことと次年度の指導につなげることができる。</p>					

※注 情報検索サイト「かすたねっと」の「教材」→「指導者」から、資料を検索することができる。

<出典> 文部科学省 個別の指導計画 (指導に関する記録) 記入例

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/003/1341903.htm

(3) 「言葉の力」とその把握方法

① 「外国人児童生徒のためのJSL対話型アセスメントDLA」 (文部科学省)

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/003/1345413.htm



<対象>

- ・ 日常会話はできるが教科学習に困難を感じている児童生徒

<測定できる言語能力>

- ・ はじめの一步 (「導入会話」と「語彙力チェック」) と、「話す」「読む」「書く」「聴く」の4つの言語技能

<特徴>

- ・ テストの実施過程を学びの機会として捉える (テストをすることが学習そのものになるという考え方)
- ・ 「対話型」のテスト (指導者と児童生徒一対一で)

測定の方法、留意点などは、動画を見ると分かりやすいので、ぜひご覧ください。

- 1 概要 <https://www.youtube.com/watch?v=f8QChp2FdLM>
- 2 はじめの一步 <https://www.youtube.com/watch?v=0fQAv2YWSCU>
- 3 話す https://www.youtube.com/watch?v=CT1B_ZQDFw
- 4 書く <https://www.youtube.com/watch?v=4YFMiUW86hY>
- 5 読む <https://www.youtube.com/watch?v=LuKBRft9f0s>
- 6 聴く <https://www.youtube.com/watch?v=B4DWDLYYHn0>

◆ 「JSL評価参照枠」6段階のステージと「個別の指導計画」の学習目標項目の段階と『外国人児童生徒受入れの手引』の日本語プログラムとの関係について

<http://data.casta-net.jp/kyouzai/shidou/mokuhyou-rei-syoki.pdf>

「JSL 評価参照枠」		「個別の指導計画」の学習目標項目の段階	『外国人児童生徒受入れの手引き』の日本語プログラム
ステージ	学齢期の子ども在籍学級参加との関係		
1	学校生活に必要な日本語の習得が始まる。	初期指導 (前期)	
2	支援を得て、学校生活に必要な日本語の習得が進む。	初期指導 (後期)	
3	支援を得て、日常的なトピックについて理解し、学級活動にも部分的にある程度参加できる。	教科につながる初歩的な学習	
4	日常的なトピックについて理解し、学級活動にある程度参加できる。	教科につながる基礎的な学習	
5	教科内容と関連したトピックについて理解し、授業にある程度の支援を得て参加できる。	教科につながる学習	
6	教科内容と関連したトピックについて理解し、積極的に授業に参加できる。	教科学習	

<参考>

◆ 愛知教育大学外国人児童生徒支援リソースルーム <http://www.resource-room.aichi-edu.ac.jp/gakusyumokuhyourei.pdf>

②その他の把握方法

日本語の力の測定方法や評価尺度は、いくつかありますが、測れるのは一部の側面ということを認識し、下の把握例も参考にいろいろな側面から日本語の力を把握しましょう。
(多面的な把握の例 本書P50) 小学校の国語教科書を使用して音読をすることにより、漢字の読みや文節の区切り方を把握することもできます。

<把握例>

筆記によるテスト

(学校で使用するテストやドリルなどを含む)

- ・文法力 ・語彙力
- ・文字表記の力
- ・読解力 短い文を書く力

授業中の観察

- ・意欲 学習への参加の仕方
- ・授業内容の理解
- ・話す・聞く・読む・書く力

日常の観察

- ・話す力
- ・聞く力
- ・友達との交流
- ・得意なことや好きなこと

作文、日記、発表やスピーチ

- ・興味・関心
- ・長文を書く力
- ・構成力

◆伊勢崎市「つながる・ひろがる ISES AKIステップ」

<https://www.city.isesaki.lg.jp/material/files/group/77/2020isesakistep.pdf>

「日常会話の力」と「学習活動に参加する力(聞く／聴く・話す・読む・書く)」に分けられています。それぞれ7つのステップを設けてあり、これを共通の目安として、複数の関係者で言葉の発達を観察し把握することができます。

◆太田市「にほんご いっぱいおぼえたよ！」

http://www.nc.gunma-boe.gsn.ed.jp/?action=common_download_main&upload_id=325

語彙(文型、名詞、動詞、形容詞、形容動詞、副詞、その他)の表が作成されており、習得したらマーカーで印を付けチェックし、日本語の語彙力を把握します。
1日目から40日目まであります。

◆早稲田大学大学院 JSLバンドスケール(川上郁雄研究室)

<http://gsjal.jp/kawakami/jslbandscale.html>

JSLバンドスケールは、日本語を学ぶ子どもの日本語の発達段階を把握し、子どもの「ことばの力」を育むために、どのような実践を行うかを考えるためのツールです。日常的な実践から、日本語の発達段階を把握することができます。

(Web ページ説明より)


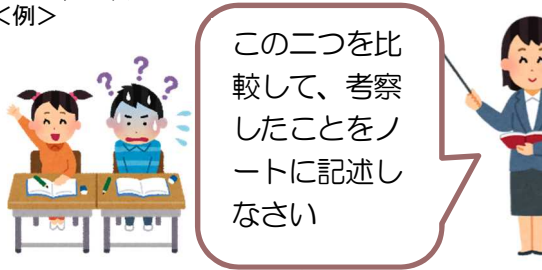
(4) 初期の日本語指導

日本語初期指導ぐんぐんプログラムは、学校生活に必要な語彙を中心に学習しますが、それだけでは十分ではありません。更に教科学習に取り組むことができるよう継続的な指導が必要です。(プログラム詳細：文科省手引 P28～34)

<p>日本語指導担当教員がいる学校では 担任と日本語指導担当教員や日本語指導支援員と連携して指導します。互いの情報交換が大切です。少しの時間を見つけて話し合ったり、連絡ノートをやりとしたりなど、工夫しましょう。</p>	<p>日本語指導担当教員がいない学校では 担任を孤立させないよう、外国人児童生徒等教育担当を置き、学校全体で支援する体制づくりが重要です。 ボランティア等の支援を受けることもできます。(本書 P70)</p>
--	---

Q 日本語のおしゃべりはすぐ上手になったのに、授業についていけないのはなぜですか？

A それは、日常会話と教科学習とでは、求められる日本語の力が異なるからです。外国人児童生徒等への日本語指導では、日常会話の力(生活言語能力)と、学習活動に参加する力(学習言語能力)を目標にする必要があります。このことを理解し、在籍学級での教科等の授業に参加できる支援を継続していくことがとても大切です。

日常会話の力	学習活動に参加する力
<ul style="list-style-type: none"> ・日常的で具体的な会話の場面 ・具体物やジェスチャー、ヒントになることが多く、会話が成立する ・生活の中で自然に身に付くが、教員の支援も必要 ・約1～2年で伸びる <p><例></p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科等の授業での場面 ・情報を取り入れ、分析や考察したことを伝えるための思考を支える言語の力 ・計画的な支援が必要 ・母国で学校教育の経験がある場合でも5～7年と言われている <p><例></p> 

学習活動に参加する力が十分でない場合、授業に参加できるようにする支援例

- ・漢字にルビを振る。
- ・長い文を単文(主語に対して述語が一つの文)にする。
- ・分かち書き(文節ごとに区切るなど)にする。
- ・日常使う語彙に近づける。
- ・ジェスチャーを併用する。

➡「(ものを指し示し)この二つを比べます。考えたことをノートに書いてください。」

指導のポイント

①生活に必要な語彙から

実物や写真、絵を利用して意味を理解できるようにし、繰り返し聞いたり話したり、読んだり書いたりします。繰り返し指導する中に、ゲーム等の活動を取り入れて定着を図ります。

②易しい文型から複雑な文型へ

<教材例>

- ・「新版みえこさんのにほんご」「新版みえこさんのにほんご れんしゅうちょう2」
三重県教育委員会
<https://www.pref.mie.lg.jp/GAKOKYO/HP/27461025557.htm>
- ・『こどものにほんご1』『こどものにほんご2』（スリーエーネットワーク）
- ・『中学生のにほんご学校生活編』『中学生のにほんご社会生活編』（スリーエーネットワーク）

③文字指導

- ・発音や語彙の指導とともに行います。
- ・小学校1年生の国語の教科書も活用できます。
- ・基本的には「ひらがな」「カタカナ」「漢字」の順ですが、教科学習や行事などの活動との関連を考え、使用頻度の高いカタカナ語彙や漢字語彙については、ひらがなの学習が終了する頃から適宜導入して構いません（体育で水泳学習が始まるので「プール」を先に学習する、算数で長さを学習するので「長さ」を読めるようにするなど）。

○ひらがな

- ・清音「あ～ん」→濁音「が～ぼ」→半濁音「ぱ～ぽ」→拗音「きゃ～ぴょ」の順に指導します。
- ・表記練習だけでなく、読む練習も十分行います。

<教材例>

- ・「ことばとおぼえるひらがなワーク」ほか
愛知教育大学リソースルーム
<http://www.resource-room.aichi-edu.ac.jp/kyozai.html>

○カタカナ

- ・生活に必要な日本語と関連させて指導します。
- ・ひらがな、カタカナは、小学校1年生の教材も活用できます。

○漢字

- ・絵カードや母語教材などを利用して、意味を表す文字であることを理解できるようにします。

<教材例>

- ・東京外国語大学多言語多文化共生センター「外国につながる子どもたちのための教材」
1～3年生の漢字教材
(ポルトガル語、タガログ語／英語、スペイン語、ベトナム語、タイ語)
<http://www.tufs.ac.jp/blog/ts/g/cemmer/social.html>

(5) 学級での学習に参加するために

外国人児童生徒等は、「みんなと同じ勉強をしたい」という願いをもっています。しかし、来日直後は日本語が分からないため、外国人児童生徒等はできないことが多いかもしれません。日本語教室に通うことがあるかもしれませんが、一日の大半を過ごすのは学級です。友達と一緒に学習することで、そのときに必要な日本語をたくさん聞き、自然に日本語を習得することもあります。学級の児童生徒も外国人児童生徒等も、他者との関係性の中で学び、成長する機会となります。

以下の例を参考に、学級の授業に参加できる支援を考えていきましょう。

<伝え方の工夫>

目で見て分かるように

- ・視覚的な資料を用意します。
- ・大事な言葉を板書や掲示をします。

分かりやすく話す

- ・単文（一文に述語が一つ）
- ・短文
- ・相手が聞き取れる速さで話します。
- ・「やさしい日本語」で話します（補P10）。
- ・ジェスチャーや指さしを併用します。

共に学ぶ授業づくり

- ・友達と一緒に活動し、友達を見て学べるようにペアやグループ学習を授業に取り入れます。

<ひらがな習得後>

読みへの支援

- ・教科書の漢字にルビを振ります。
- ・リライト教材を活用します。（本書P58）
- ・意味のまとまりがつかみにくいところに区切りの線を引いておきます。

ノート指導やワークシートの工夫

板書を写すことに集中してしまい、担任や友達の話が聞けなくなることがあります。書くのも時間がかかります。

<支援例>

- ・板書は後で写してもよい
- ・板書事項を別にプリントして渡す
- ・ワークシートは、キーワードだけ書き込めるものを別に用意する
- ・フォントは教科書体等にする 「さ」と「さ」、「ふ」と「ふ」、「り」と「り」など

<教科学習につなげるために>

在籍学級の授業に参加できるよう、在籍授業の予習（先行授業）を「取り出し」指導で行うことで、在籍学級での授業に参加しやすくなる場合があります。また、日本語指導担当教員が「入り込み」指導をすることもあります。いずれも担任と日本語指導担当教員とで、授業のねらいや進め方を共有して行うことが大切です。



ひらがなよめたよ

小学校中高学年以上になれば文字の必要性が分かり、覚えようとする場合が多いのですが、文字の必要性を感じないとなかなか覚えられない場合もあります。ある児童の場合、学級で「配り係（ノート等を配る係）」になったところ、一生懸命友達の名前を読もうとしてひらがなを覚えられた、ということがありました。

◆学級での学習に参加する際の支援例

①ユニバーサルデザインや特別支援教育の考えを取り入れた指導

群馬県総合教育センター 特別支援研究係平成 30 年 3 月発行

「各教科等における学習の困難さに応じた指導の工夫の例～小学校・中学校 新学習指導要領〔解説〕から～」

http://www.nc.center.gsn.ed.jp/?action=common_download_main&upload_id=8003

②リライト教材の活用

リライト教材とは、原文を外国人児童生徒等の日本語力に合わせて分かりやすい表現に書き換えた教材のことです。

トロッコ

(前略)

或る夕方、――それは二月の初旬だった。良平は二つ下の弟や、弟と同じ年の隣の子供と、トロッコの置いてある村外れへ行った。トロッコは泥だらけになったまま、薄明るい中に並んでいるが、その外は何処を見ても、土工たちの姿は見えなかった。三人の子供は恐る恐る、一番端にあるトロッコを押した。トロッコは三人の力が揃うと、突然ごろりと車輪をまわした。良平はこの音にひやりとした。しかし二度目の車輪の音は、もう彼を驚かさなかった。ごろり、ごろり、――トロッコはそう云う音と共に、三人の手に押されながら、そろそろ線路を登って行った。その内にかれこれ十間程来ると、線路の勾配が急になり出した。トロッコも三人の力では、いくら押ししても動かなくなった。

(後略)



芥川龍之介
原文

- ・リライト教材による指導の後は、学習した部分の原文を必ず読みます。
- ・リライト教材で内容を理解し、原文の表現と比較したり、内容を再確認したりします。

トロッコ

二月の始めの夕方だった。良平は二つ下の弟や、弟と同じ年の隣の子供と、村外れへ行った。トロッコは泥だらけになったままだった。トロッコは薄明るい中に並んでいる。でも、トロッコのほかに、どこを見ても、土工たちの姿は見えなかった。三人の子供は恐る恐る、一番端のトロッコを押した。三人が力を合わせてトロッコを押すと、突然、ごろりと車輪がまわった。良平はこの音にひやりとした。しかし、二度目に、車輪の音がしても、もう彼は驚かなかった。トロッコは、ごろり、ごろり、という音がした。トロッコは、三人の手に押されながら、そろそろ線路を登って行った。そして、十間くらい来ると、線路の勾配が急になった。三人の力では、トロッコは動かなくなった。



芥川龍之介

しらべよう
①薄明るい
②恐る恐る
③ひやりとする
④そろそろ

土工：土をほったり、はこんだりする
しごとをする人
十間：一間は、およそ一、ハメートル
勾配：(さかななどの)かたむき

『外国人・特別支援 児童・生徒を教えるための
リライト教材』(光元 聰江・岡本 淑明 編著
ふくろう出版)を参考に作成したもの

8 多文化共生に向けて

(1) 異文化理解

日本と諸外国とでは、様々な文化の違いがあります。例えばピアスについては、乳幼児から当たり前のように身に付けている国もあり、時にはお守り等特別な意味をもっている場合もあります。日本の学校に編入した時に、学校ではピアスは禁止だからすぐ外すように言っても、保護者はその意味が理解できず外すことを拒むかもしれません。

そこで、一律に禁止と言いついでなく、日本の学校で禁止している理由をきちんと説明することが大切です。編入直後はピアスをしていただけで、日本の学校のことが分かるにつれ、学校では外すようになったという事例もあります。

日本とは文化や習慣が違うことを知っていれば、誤解やトラブルが生じることも避けられるでしょう。

<文化の違いによる行動様式の違いとその文化背景の例> (出典：文科省手引き P63)

項目	日本	ブラジル
学校で過ごす時間	全日(8:15頃～16:00頃)	半日(7:00頃～12:30頃)
給食	有り	無いことが多い
おやつ	無し	有り(お菓子等)
遊び用具等の持参	おもちゃ等の持参は不可	おもちゃ等の持参は可
服装等	ピアス、染め毛禁止	ピアス等自由
飲料水の持参	禁止	ジュースもよい
掃除当番	有り	無し(清掃員が行う)
家庭訪問	有り	無し
欠席	欠席の場合は学校へ連絡	連絡なしで欠席しても問題ない場合もある
個別懇談	有り	無し
カバン	ランドセル、リュック	キャスター付きバック
夏休み	約40日間(宿題有り)	約3か月間(宿題無し)
冬休み	約2週間(宿題有り)	約1か月間(宿題無し)

他にも学校にプールがない、音楽は器楽や鑑賞がない、入学式はない、卒業式は盛大に行う、お昼は家に帰って食べる、冷たい食事をする習慣がない、おやつのあるなど、学校事情は異なります。さらに、同じ国でも地域によって異なる場合もあります。

外国人児童生徒等が編入することになったら、その国のことを調べてみましょう。

◆文科省「世界の学校体系」

https://www.mext.go.jp/b_menu/shuppan/sonota/detail/1396836.htm

◆外務省「キッズ外務省」(出典：外務省ホームページ)

<https://www.mofa.go.jp/mofaj/kids/index.html>

◆千葉県教育委員会「知りたいな友だちの国のこと」「母国の教育事情」

<https://www.pref.chiba.lg.jp/cate/kbs/kyouiku/gakkou/gaikokujin/index.html>

◆「日本語指導が必要な児童生徒を迎えるにあたって」

静岡県教育委員会学校教育課・静岡大学教育学部

<https://gakkyo.shizuoka.ednet.jp/siryu/nihongosidou.pdf>

Q 編入する児童生徒の信仰する宗教について、配慮することはありますか？

A 受入れの面接時等に、保護者から家庭的な背景や状況を聞き取りましょう。保護者と信頼関係をつくる上で重要です。トラブル回避にもつながります。

例えば、イスラム教圏の外国人児童生徒等の場合、宗教的理由から食品の中には口にしていけないものが多く含まれています。一般によく知られている「豚肉を食べない」ことだけではなく、宗教的な判断による禁忌は出身の国や地域、各家庭の信仰度合いなどから様々に異なります。弁当を持参してもらうのか、服装はどうするのか、参加できない学習があるのかなど、その内容は多方面にわたります。日本では当然のように行っている学校教育とは異なる考えもあり、戸惑うこともあるかもしれません。

まずは、保護者と宗教上の配慮事項について話し合う機会をもちましょう。

群馬県内のある小学校では、同じイスラム教徒でも、音楽の授業を受けている児童もいれば、受けていない児童もいます。保護者に音楽を学ぶことの意義をしっかりと伝えた上で、それだったら音楽の授業を受けるとなる場合と、それでもやはり授業を受けないという場合があります。学校として「給食時に弁当を持参するのはよいが、家に帰って昼食をとることはできない」、「修学旅行の食事は対応するので、行事に参加してほしい」など、お互いに歩み寄れる方法をじっくりと話し合ひましょう。大切なのは、日本の学校教育についてよく説明し、保護者に理解してもらった上で教育活動を行うことです。

イスラム教に限らず、他の宗教でも日本の学校と異なる習慣があるかもしれません。大切なのは相手の話をしっかり受け止め、相手の立場を尊重するという態度です。そのことにより、保護者との信頼関係を築くことができ、日本の教育についての理解も徐々に深まっていくものと思います。



スカーフ、長ズボンで体育をする児童



宗教上、目を描いていない自画像

(2) 仲間づくり・学級づくり

外国人児童生徒等が編入したばかりの頃は、休み時間になると周りの児童生徒も外国人児童生徒等に話しかけたり、面倒をみようとしたりします。しかし、中には言葉や習慣が違うことに戸惑い、外国人児童生徒等にどう接していいか不安に思っている児童生徒もいるかもしれません。積極的な外国人児童生徒等は、自然に周りや打ち解け合う場合もありますが、自己表現が苦手な場合、なかなか友達をつくることができません。担任は、学級の児童生徒の実態を把握し、次ページの例のように学級の児童生徒同士の関わりを支援していくことが大切です。

外国人児童生徒等が学級にいて、外国や異文化に興味をもつきっかけになったり、コミュニケーションの方法を学んだりすることができ、学級の児童生徒にとって貴重な経験となり、学級がより豊かになることでしょう。同じ学級の仲間同士として共に成長する学級を目指しましょう。

<ある小学校の在籍学級担任へのインタビュー>

「外国人児童がいることで、大変なことはないですか？」

確かに、言葉が通じなくて大変なことはありますが、日本語教室の先生にも手伝ってもらっています。それに、外国とつながりのある児童がいることで、日本の児童も違う文化を知ることができます。いろいろな子供たちがいて、学級の雰囲気が活発になり、楽しいですよ。



担任



どの子も同じクラスの仲間として、仲良く学んでいますね。



インタビュアー

コラム

言葉は通じなくても

西アジアから来た Bさんは、母語以外の言語は話せません。給食や掃除当番のやり方は、同じ当番の子供たちが身振り手振りで教えます。Bさんも一生懸命まねします。体育のときは、クラスの誰かがこっちだよと手招きして教えます。そんなことを繰り返して、Bさんは次第に学校に慣れていきました。編入当初、担任は不安でいっぱいでしたが、子供たちの姿から、外国人だからと気負いすぎているのは自分の方だったと気付きました。Bさんの文化である手で食べることに、最初は驚きながらも受け入れ、箸の使い方も教えていました。学級の子供たちは、言葉が通じないなりにどうしたらよいか考え、行動していました。このクラスの子供たちは、異文化理解を自然に学んでいたんですね。

＜学級づくりの指導例＞

実態把握

外国人児童生徒等の個性を把握し、特に好きなことや得意なことを知ることが大切

- ・ 日常の観察
- ・ 本人や保護者との面談
- ・ 学級の児童生徒からの話
- ・ 日本語指導担当教員の話 など



指導のポイント

- 担任から、外国人児童生徒等の頑張っている様子やよさを学級に伝えましょう。
- 転・編入学間もない頃は、言葉が分からなくてもできるゲーム等を行うと、学級の児童生徒が休み時間にも遊びに誘いやすくなります。

＜活動例＞ ・じゃんけん ・おにごっこ ・ドッジボール



- 友達関係を築けるような配慮をしましょう。

＜支援例＞ ・係や当番活動などを他の児童生徒と一緒にやる。
・同じ国の出身者や、関わり方の上手な児童生徒をキーパーソンとし、その児童生徒から徐々に交流を広げる。

- 外国人児童生徒等の言葉や文化をトピックとして取り上げて、学級活動を行うのもよいでしょう。

＜活動例＞ ・外国人児童生徒等が先生になって、その国の言葉や文化を学ぶ。
・いろいろな国の遊びを調べて学級で遊ぶ。
・相手の立場に立って考え、学級の仲間として何をするか考える。

- 道徳科や総合的な学習の時間の「国際理解」等で、外国と日本の違いを調べます。
「体育ではどんなことをするのか?」「給食はあるの?」など、身近な疑問を調べることから始めるのもよいでしょう。

◆外国につながる子どもがホッとする授業づくり
～教科書を活用したアイデア集～（かながわ国際交流財団）

<http://www.kifjp.org/shuppan/guidebook#hotto>

◆外国人の人権尊重に関する実践事例について（文部科学省）

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/jinken/jirei/1384106.htm

<国際理解教育の取組事例>

外国人児童生徒等の母国の言葉や文化を全校集会で紹介するなどして、自分のルーツに誇りをもち、自己肯定感を高める取組事例もあります。



その国の固定的なイメージにとらわれないようにしましょう。ブラジルから来たからといって、全員がサッカーやダンスが得意とは限りません。外国の人から「日本人なら空手をやって見せて」と言われても困ります。また、日本生まれの外国人児童生徒等もいますし、来日した年齢によっては自分の国の文化に詳しくない場合もあります。

日本の児童生徒がそうであるように、外国人児童生徒等の個性も様々です。「○国人」という見方をするのではなく、「Aさんは、どんな個性があるのだろう」という見方をしてみましょう。



「日本語ができないAさん」ではなく 「〇〇語ができるAさん」

外国人児童生徒等を迎えたとき、つい「Aさんは、日本語ができない」「Aさんに教えてあげる」という見方をしてしまったたり、文化や習慣の違いを理解せずに「こんなことも知らないの」と否定的に見てしまったりすることがあるなら、それは偏見です。

Aさんは日本に来る前、母国でその国の文化で育ち、その国の言葉を話していました。学校でも学習してきました。できること、得意なこともたくさんあるはずです。そして今、日本の学校に編入し「日本語も話せるようになったAさん」「日本のことも知っているAさん」になろうとしています。このような考え方に立って、外国人児童生徒等と接することが大切です。「お世話をしなければならないAさん」「ちょっと面倒な存在のAさん」ではなく、「Aさん、がんばっているな」「Aさんから、教えてもらいたいな」となるよう学級の児童生徒を導いてください。



もし、日本語でのコミュニケーションが十分できない外国人児童生徒等が、日本人の友達とトラブルになってしまったらどのように対処したらよいでしょうか。

A 自分の言いたいことが伝わらないことや、周りの言っていることが分からないことは、かなりのストレスとなります。そのことで児童生徒によっては、つい攻撃的になってしまう場合もあります。また、外国人児童生徒等が少し日本語で会話ができるようになると、周りの児童生徒はもうこのくらいのことは分かっているだろうと思ってしまって、詳しく説明しないために行き違いが生じることもあります。

次のような事例を考えてみましょう。

外国から日本に来て数か月、日常会話が少しできるようになってきたCさんは、休み時間に外でクラスの友達とドッジボールをするのが大好きで、いつも楽しみにしていました。ところが、その日はみんな長縄跳びをしようとしています。実は朝の会で担任が、「今日の休み時間は大会に向けて長縄跳びの練習をします」と言ったのですが、Cさんには理解できなかったのです。Cさんは、仲良しのD（日本人）さんに「ドッジボールやろう」と言ったのですが、Dさんは、「ダメ」と言って長縄跳びに行こうとしました。一方的に断られたと思ったCさんは、つい持っていたボールをDさんに投げつけて、当ててしまいました。

こんな時担任が、頭ごなしにボールを当てたことだけを指摘して、「謝りなさい」とCさんに注意したら、Cさんは「自分だけが悪いのではない」と思ってしまったかもしれません。ですがこの時は、担任がきちんと双方の話を聞き取り、行き違いの原因をそれぞれに説明したので、Cさんも納得し、Dさんにボールを当てたことを謝りました。

まだ日本語が通じない外国人児童生徒等へは、母語支援員等の助けを借りることもよいでしょう。行き違いの原因は何かを探り、それぞれの児童生徒へ丁寧に説明し、理解を促すことが大切です。Dさんも「Cさんが誘った時ダメと答えるだけでなく、Cさんが分かるように伝えればよかった」と気付きました。そしてこのことは、担任から学級の児童生徒へも伝えました。このようにすることで、同じようなトラブルを防ぐことができるでしょう。

日本人同士でも言葉の行き違いは起こることがあります。その際の指導と考え方は同じなのです。

保護者への説明が必要な場合もあります。その際には、日本の文化や習慣が分からないこともあることを理解した上で、直接会って分かりやすい日本語で説明する、通訳を依頼するなど、伝え方を工夫しましょう。

(3) 保護者との信頼関係づくり

①日本と外国との習慣の違いを理解する

外国人児童生徒等の保護者（以下、保護者）と接していると、日本と外国との習慣の違いを感じる場合があります。例えば、連絡なく休む、持ち物がそろわないなどです。しかし、このことで「保護者は、教育に関心がない」「子供の面倒をあまり見ない」という偏見を抱いてはよくありません。欠席の連絡をする、体育着やリコーダー、絵の具などの学習に使う物を必要に応じて持参するなど、日本では当たり前の習慣が外国とは異なることがいろいろあり、保護者も戸惑うことがあります。「最初の面接のときに説明したからもう分かっているだろう」と思うのではなく、**継続的に話し合う機会**を設け、お互いの信頼関係を築いていくことが大切です。



宿題や提出物を出せるようにするには、どうしたらよいですか？



宿題の習慣のない国もあります。保護者に「なぜ宿題を出すのか」をよく説明しましょう。また、「日本語が分からないから教えられない」と言う保護者もいますが、「宿題をしたか」の確認をするだけで、子供は保護者から見てもらっていると安心感をもつことができるということを伝えましょう。

提出物も同様です。提出期限をしっかりと守ることが、日本ではとても重要なことを伝え、通知文書の重要な所にマークをしたり、翻訳したりするなどの工夫をしましょう。

②行事の前には、個別に連絡をする

行事の詳しい内容や持ち物、集合時刻などしっかり伝えましょう。「お弁当」「雨具」などの習慣も理解しにくいことです。言葉だけでなく、実物や写真などを使って説明しましょう。



「校外学習、行かない」

校外学習の集金をなかなか持ってこないのも、保護者に連絡を取ると、「行かない」という返事です。行事は、基本的に全員参加ということを知らなかったのです。また別のときには、「子供だけでは行かせられない」と言われたこともありました。「保護者の付き添いがなく、子供だけで行くことが危険であり、心配だ」と思ったようです。

日本の校外学習は教員の指導の下に行う教育活動の一環であり、通常は全員が参加するものであることは、説明しなくても当たり前のことであると思ってしまうのですが、外国の方にしてみれば、全く初めての経験なのです。

いずれの場合も、保護者に行事の内容や教育的な意義、安全に配慮していることなどを丁寧に説明して、理解してもらいました。行事に参加した外国人児童生徒等は、学級の友達と同じように参加することができ、とてもうれしそうでした。児童生徒は、家に帰った時に「楽しかった」と保護者へ伝えたことでしょう。そのことで、きっと保護者は安心し、日本の学校行事への理解にもつながっていくのだと思います。

③保護者との連絡方法を工夫する

- ・学校からの通知文書の習慣がない国もあります。学校から通知文書があることや必ず目を通してほしいことを折に触れて保護者に伝えましょう。
- ・必要に応じて、可能であれば**翻訳文書**を配付しましょう（本書P12）。
- ・通知文書の重要度や書かれている内容の重要部分について、**外国人保護者はよく分かりません**。日本語の通知文書の場合は、重要な箇所には決まった印や「Important」を付けておく、マーカーで線を引くなどしておくといよいでしょう。
- ・説明が難しい内容のとき、保護者が不安に感じられるときなどは、直接会って話し合う機会をもちましょう。必要に応じて、通訳をお願いしましょう。
- ・日本語で通知文書を出す場合は、**やさしい日本語**で書きましょう（本書P10）。


◆ 出入国在留管理庁 文化庁 在留支援のためのやさしい日本語ガイドライン

<http://www.moj.go.jp/isa/content/930006072.pdf>

◆ やんしす（やさしい日本語支援システム）


<http://www.spcom.ecei.tohoku.ac.jp/~aito/YANSIS/>

<通知文書の具体例>



**うんどうかい
運動会のお知らせ**

**たいせつ
大切**



◆ 日にち 9月20日（土曜日）



◆ 学校に集まる時間 8時

◆ やるところ 校庭

◆ 着るもの（ふく） 体育着（半そで、短パン） 赤白ぼうし

◆ 持ち物 リュックサック 水筒 タオル

注意 雨のときは、やりません。学校は休みです。
運動会は次の日にやります。
おとうさん、おかあさんも見に来てください。

重要な通知文書のときのマークをいつも同じにするとよいです。

関連したイラストで保護者が見て内容が分かるようにします。

文は簡条書きにする、ルビを振るなど工夫します。重要な語句を太字等で強調します。

④保護者会を開く

保護者の出身国によっては、保護者会がなかったり、保護者が学校に行く習慣があまりなかったりすることも考えられます。外国人児童生徒等が多く在籍する日本の学校では「外国人保護者会」があり、充実した活動を実践している例もあります。保護者が困っていることや不安に思っていることなどを聞いたり、日本の学校で大切にしていることを伝えたりするよい機会になっているようです。

学校は、保護者に学級懇談会等への参加を呼びかけましょう。外国人保護者と日本人保護者との接点を作ることも重要です。保護者の横のつながりがあれば、情報の交流も頻繁になりますし、日本語が多少分からなくても知り合いの保護者がいることで、安心して学校に来ることができるでしょう。

(4) 将来を見据えて

帰国予定が明確に決まっている場合以外は、日本で進学や就職をする可能性があると考えておくといよいでしょう。外国人児童生徒等が夢や希望をもち、その実現のために日本での学校生活が目標をもって送れるよう、**小学校の段階から将来を見据えて、日本語力や学力をつけていくことが大切です。**

編入時の面接では、日本への長期滞在を希望していると話す保護者が多くいます。また、現在小・中学校に在学中の外国人児童生徒等は、日本での高校進学を希望する場合があります。

群馬県公立高等学校入学者選抜では、外国人児童生徒等に対して右ページのような特例措置があります。ただし、その際の条件には「県内に居住し、又は居住予定のある外国籍を有する者にあつては、令和3年2月1日現在、**入国後の在留期間が通算で3年以内の者**」等があります。(令和3年度群馬県公立高等学校入学者選抜実施要項付記参照)

外国籍を有している生徒で中学校入学以前に日本に入国した場合は、この措置が適用されず、生まれた時から日本で育った生徒と同じ条件での入学者選抜を受けなければなりません。さらに、高校進学に学力検査があることや公立と私立の違い、進学にかかる費用等、外国人児童生徒等の保護者にとって知らない情報がたくさんあります。計画的に進路指導をし、必要な進路情報は早めに知らせましょう。

保護者との面談や進路相談に向けて、以下のようなことを伝えましょう。

POINT 学校から保護者や外国人児童生徒等へ伝えること

○母語の重要性 (本書P6)

- ・家庭では、保護者と進路の相談ができるよう母語で会話をすることを勧めます。

○学習状況の伝達

- ・日本語の習得状況や学習面でのつまづきなどを具体的に伝えます。
- ・国によっては小学校でも留年制度があり、日本では進級しているのだから問題なく勉強ができていってしまう、いざ進路選択になって学習の遅れに初めて気付く保護者もいます。

○進路情報の提供

- ・教育委員会、NPO、ボランティア団体、外国籍の卒業生などの協力を得て、高校進学や就職など進路に関する情報を収集し、保護者へ伝えます。
- ・高校に入学するためには入学試験があり合格しなければならないことや、受検時及び入学時には、多額の出費があること(受検料、教科書や制服代など)、受検当日の諸注意を説明します。※ 翻訳資料等を活用するとよいです。

<進路説明会 例>

市町村やNPO主催による進路説明会を外国人児童生徒等と保護者を対象に、通訳を介して行っているところもあります。

右写真：伊勢崎市緋の里（令和2年11月29日）
講師：Gコミュニティ 本堂 晴生 代表
内容：日本の学校のしくみの説明



令和3年度群馬県公立高等学校入学者選抜実施要項

付記5（前期選抜における海外帰国者等入学者選抜）

付記6（後期選抜における海外帰国者等入学者選抜）より一部抜粋

詳しくは、群馬県Web ページ

https://www.pref.gunma.jp/cate_list/ct00001466.html

付記5 前期選抜

7 学力検査等

「第2 全日制課程前期選抜 6 学力検査等」に準ずる。

8 選抜方法

「第2 全日制課程前期選抜 7 選抜方法」に準ずるが、高等学校長は、**海外での学習状況等を十分に配慮**の上、提出された書類及び検査の結果等を総合して選抜するものとする。

付記6 後期選抜

7 学力検査等

「第3 全日制課程前期選抜 7 学力検査等」に準ずるが、学力検査を実施する教科は、「国語」、「数学」及び「英語」とし、別室にて、「社会」の時間は「作文」（題は各高等学校で準備する。）、「理科」の時間は「面接」（学校によっては英語で行うこともある。）とする。

なお、フレックススクール後期選抜における学力検査等については、高等学校長が定めるものとする。

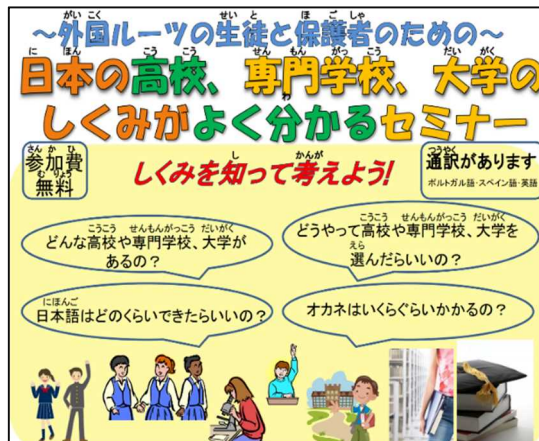
8 選抜方法

「第3 全日制課程前期選抜 8 選抜方法」に準ずるが、高等学校長は、前記「7 学力検査等」に示す「作文」及び「面接」の結果を十分に配慮の上、提出された書類、学力検査の結果等を総合して選抜を行うものとする。

Gコミュニティによる 外国人のための進路説明会

毎年、日本の高校、大学などの進路について、外国人児童生徒等や保護者に向けて、セミナーを開催しています。

資料も数か国語に翻訳で用意され、通訳者が同席するなど、細かい配慮もあります（本書P70）。



Gコミュニティ開催のセミナー通知より一部抜粋

就学関係

◆ 外国人児童生徒受入れの手引き 改訂版

文部科学省総合教育政策局男女共同参画社会学習・安全課

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/002/1304668.htm



◆ 日本の学校教育制度や就学に関する資料

・ 文部科学省 「外国人児童生徒のための就学ガイドブック」

英語・韓国・朝鮮語・ベトナム語・フィリピン語・中国語・ポルトガル語・
スペイン語に対応

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/003/1320860.htm

・ 太田市教育委員会 「小学校入学前にお子さまに身に付けさせてほしいこと」
ポルトガル語、英語、タガログ語

<https://www.city.ota.gunma.jp/005gyosei/0170-003kyoiku-sidou/>

・ 三重県 「保護者向け通知文例集」

<http://www.pref.mie.lg.jp/common/04/ci600002380.htm>

◆ 学校生活や学用品の準備などの説明に使える資料

・ 富山県総合政策局 国際課 「たのしい！とやまの小学校」

http://www.pref.toyama.jp/cms_sec/1018/ki00015191-002-01.html

・ 静岡県教育委員会 多言語リーフレット 外国人児童生徒・保護者のための学校の
手引き「ようこそ！日本の学校へ」

<http://www.pref.shizuoka.jp/kyouiku/kk-060/youkostonihonnogakkou.html>

生活支援

◆ スクールホットライン群馬

電話による外国人の子どもの教育相談窓口です。

電話 080-8730-6969（ポルトガル語、スペイン語、英語、日本語）

※ NPO 法人 GコミュニティのWeb ページに 4 言語に翻訳した案内があります。

<https://jp-ed-gcommunity.jimdofree.com/>

◆ 外国人支援の各種団体

・ NPO 法人 Gコミュニティ

「外国ルーツの生徒と保護者のための日本の高校、専門学校、大学のしくみがよくわかるセミナー」があります。

<https://jp-ed-gcommunity.jimdofree.com/>

・ NPO 法人 群馬の医療と言語・文化を考える会

医療通訳者の派遣を行っています（2021 年9月まで無料）。

<https://www.iryotsu-gunma.org/>

◆ 各市町村国際交流協会 (Web ページ検索)

<http://www.gtia.jp/kokusai/japanese/living/japanese.php>

All Around GUNMA（公益財団法人群馬県観光物産国際協会）

→「暮らしのお役立ち情報」→「にほんごきょうしつ」

前橋市、高崎市、桐生市、伊勢崎市、太田市、館林市、渋川市、藤岡市、
富岡市、榛東村、玉村町、大泉町、安中市、沼田市

◆ ぐんま外国人総合相談ワンストップセンター

在留手続き、雇用、医療、福祉、出産・子育て・子供の生活などの相談窓口です。

電話 027-289-8275

（英語、ベトナム語、ポルトガル語、中国語、スペイン語）

https://www.pref.gunma.jp/03/ci11_00012.html

翻訳関係

◆ AI 音声翻訳機

互いに相手の言葉を話せない人同士が自国語のまま、簡単に対話できる有料 AI 通訳機。82 の言語に対応できるものもあります。

◆ 翻訳アプリ

無料サービスで、単語、フレーズ、Web ページを英語から 100 以上の他言語にすぐに翻訳できるアプリもあります。文章を写真に写して翻訳する機能もあります。

◆ 多言語音声翻訳アプリ (VoiceTra)

研究用無料アプリで、世界 31 言語に対応しています。正しく翻訳できているか自分の言語で確認できる機能もあります。

（国立研究開発法人情報通信研究機構先進的音声翻訳研究開発推進センター
（ASTREC））

学習支援関係

◆ かすたねっと

外国につながるのある児童・生徒の学習を支援する情報検索サイト（文部科学省）各都道府県・市町村教育委員会等で公開されている多言語による文書や日本語指導、特別な配慮をした教科指導のための教材等、様々な資料（教材、保護者への通知文書、多言語の学校関係用語など）の検索が可能です。

<https://casta-net.mext.go.jp/>

- ・教材・文書検索ツール→ 又は
- ・多言語の学校関係支援ツール→ 又は

<検索例> 教材検索→国語→ほしい教材等を選ぶ

→→Web ページへ

※ かすたねっとに掲載している教材・資料は、教育委員会や学校が作成・公開しているものです。掲載されている教材・資料の内容、著作権などに関することは、それぞれの公開主体にお問い合わせください。

※ 「文部科学省ウェブサイト利用規約」に詳細があります。

https://www.mext.go.jp/b_menu/1351168.htm

◆ 外国につながる子ども向けの教材が知りたい！（文部科学省）

日本語指導や教科指導に役立つWeb ページをまとめて紹介してあります。

https://www.mext.go.jp/a_menu/ikusei/gakusyushien/mext_00663.html

◆ 「マルチメディア版にほんごを まなぼう」日本語指導教材研究会（平成 10・11・12 年度文部科学省委託）

『にほんごをまなぼう』『日本語を学ぼう2』『日本語を学ぼう3』を基に内容の改訂等をした日本語指導教材です。

<http://data.casta-net.jp/kyouzai/mm-nihongo/>

◆ J S L カリキュラム

帰国・外国人児童生徒教育等に関する施策概要（文部科学省）

日本語と教科の統合学習のためのプログラムの詳細です。

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/003/001.htm

研修

- ◆外国人児童生徒等教育を担う教員の養成・研修のための「モデルプログラム」
Kodomo Nihongo Teachers (kNit) をつなぐ (knot) ネットワーク (net) Knit
knot-net (ニットノットネット) 公益社団法人日本語教育学会
授業・研修の目的に合わせて内容が選択でき、豊富な具体例や資料に関する情報もあり、研修のためのWeb コンテンツもあるなどの特徴があります。

<https://mo-mo-pro.com/>

- ◆「外国人児童生徒等教育アドバイザー」派遣（文部科学省）
外国人児童生徒等に対する指導・支援、多文化共生の取組等について、教育委員会へのアドバイスや教員研修の充実のため、文部科学省から「外国人児童生徒等教育アドバイザー」を派遣してもらえる事業です。（令和2年度の募集期間は、令和2年4月6日～5月8日でした。）

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/003/1418999.htm

その他

- ◆公益財団法人 かながわ国際交流協財団
就学、授業づくり、多文化共生に関わる資料が多数あります。

<http://www.kifjp.org/shuppan>

- ◆千葉県教育委員会
学校の生活（学校の様子を紹介したDVD）、母国の教育事情、入学手続き（文部科学省作成「就学ガイド」の外国語訳）英語、ハングル語、ヴェトナム語、フィリピン語、中国語、ポルトガル語、スペイン語、外国人児童生徒の受入・適応及び日本語指導などがあります。

<https://www.pref.chiba.lg.jp/cate/kbs/kyouiku/gakkou/gaikokujin/index.html>

- ◆愛知教育大学リソースルーム
文字・国語・算数・社会・その他（就学等）の教材や翻訳資料などがあります。

<http://www.resource-room.aichi-edu.ac.jp/kyozai.html>

聞き取りシート(編入時)

(年 月 日 記入者)

氏 名		性 別	男 女	生年 月 日	
日本での呼び名		国 籍		来日 年 月 日	
現 住 所		緊急 連絡先	① ②		

母 語	語	家庭内 使用言語	父(語) 日本語ができる ・ できない 母(語) 日本語ができる ・ できない
母国での 就 学 歴	幼稚園・保育園 歳 ~ 歳	日本語が できる 家族	いる 祖父・祖母・兄・姉・おじ・おば・その他() いない
	小学校 歳(年生) ~ 歳(年生)	通知文書 の翻訳	翻訳不要 ・ ふりがなが必要 翻訳が必要(語)
日本語の学習経験	無 ・ 有 (ひらがな・かたかな・会話)	滞在期間 や予定 永住希望	()年頃まで滞在予定 ・ 永住希望
性格・趣味・ 得意なこと・ 苦手な教科など		保護者の 願い (進学に ついての 考えなど)	
健康面の 留意事項 (アレルギーなど)		宗教上の 配慮 (必要な 場合)	

母語での学習経験 ※ 保護者が分かる範囲で簡単に聞き取る

教 科	学習した主な内容	○・×	教 科	学習した主な内容	○・×
国語			社会		
算数	たし算(けたまで)		理科		
	ひき算(けたまで)		音楽	楽器()	
	かけ算(けたまで)		図工		
	わり算(けたまで)		体育		
	図形		家庭科		
	長さ・重さ・かさ		英語		
	時刻と時間				
その他母国で学習していた教科や、特別な活動、習い事等があれば					
宿題や家庭学習の習慣			有 (時間くらい) ・ 無		

指導計画表

	日 目 / ()	日 目 / ()	日 目 / ()	日 目 / ()	日 目 / ()
授業前					
1校時					
2校時					
3校時					
4校時					
給食					
5校時					
6校時					
備考					

○日本語指導担当教員（外国人児童生徒等教育担当）が中心となって担任と連携し、管理職、教務主任、担任外の教員など、校内で指導する担当教員を決めて指導体制をつくりましょう。（指導計画表は本書P74）。

教材等一覧

◆日本語初期指導ぐんぐんプログラムで使用しているもの

- ・『にほんごを まなぼう』 文部省（ぎょうせい）
- ・『日本語学級 1 初期必修の語彙と文字』 大蔵 守久 著（凡人社）



- ・新版みえこさんのにほんご
- ・みえこさんのにほんご れんしゅうちょう1

三重県教育委員会

<https://www.pref.mie.lg.jp/GAKOKYO/HP/27461025557.htm>

- ・初級の児童生徒向け教材「ともだちになろう!」 静岡市教育委員会

<https://gakkyo.shizuoka.ednet.jp/news/page10.asp>

- ・外国人児童生徒教育資料 豊橋市教育委員会

<http://www.gaikoku.toyohashi.ed.jp/>

- ・こどもの日本語ライブラリ JY L Project

<http://www.kodomo-kotoba.info/shido.html>

- ・ちびむすドリル

<https://happyililac.net/kisetsu-sozai.html>

- ・ぷりんときっず

<https://print-kids.net/>

- ・ひと目でわかる!教室で使うみんなのことば（文研出版）掲示用素材ダウンロード

<https://www.shinko-keirin.co.jp/bunken/minna/>

◆その他

- ・「ことばとおぼえるひらがなワーク」ほか 愛知教育大学リソースルーム

<http://www.resource-room.aichi-edu.ac.jp/kyozai.html>

- ・「外国につながる子どもたちのための教材」

東京外国語大学多言語多文化共生センター

<http://www.tufs.ac.jp/blog/ts/g/cemmer/social.html>

- ・さんすうプリモン 大和市教育委員会教育研究所

小学1年生から6年生の算数の補習用プリントがダウンロードできます。

<http://www.ed2.city.yamato.kanagawa.jp/archive/primon/>

<参考文献>

- ・文部科学省総合教育政策局男女共同参画共生社会学習・安全課 『外国人児童生徒受入れの手引き 改訂版』 明石書店(2019)
- ・文部科学省 『小学校指導要領解説 総則編』 (平成 29 年 7 月)
- ・文部科学省初等中等教育局国際教育課 『外国人児童生徒のための JSL 対話型アセスメント DLA』 (2014)
- ・文部省 『にほんごをまなぼう』 ぎょうせい(1992)
- ・伊勢崎市教育研究所 『つながる・ひろがる ISESAKI ステップ』 (2017)
- ・高嶋 幸太 著 『日本語でできる外国人児童生徒とのコミュニケーション』 学事出版(2019)
- ・光元 聰江・岡本 淑明 編著 『外国人 特別支援 児童・生徒を教えるためのリライト教材 改訂 2 版』 ふくろう出版(2016)
- ・臼井 智美 著 『学級担任のための外国人児童生徒サポートマニュアル』 明治図書(2014)
- ・齋藤 ひろみ 編著 『外国人児童生徒のための支援ガイドブック ～子どもたちのライフコースによりそって～』 凡人社(2011)
- ・大蔵 守久 著 『日本語学級 ① 初期必修の語彙と文字』 凡人社(1999)

令和 3 年 3 月

発行 群馬県総合教育センター

長期研修員 嶋崎 雅子 中山 繭美

〒372-0031

伊勢崎市今泉町 1-233-2

電話 (0270) 26-9212 (研究企画係)